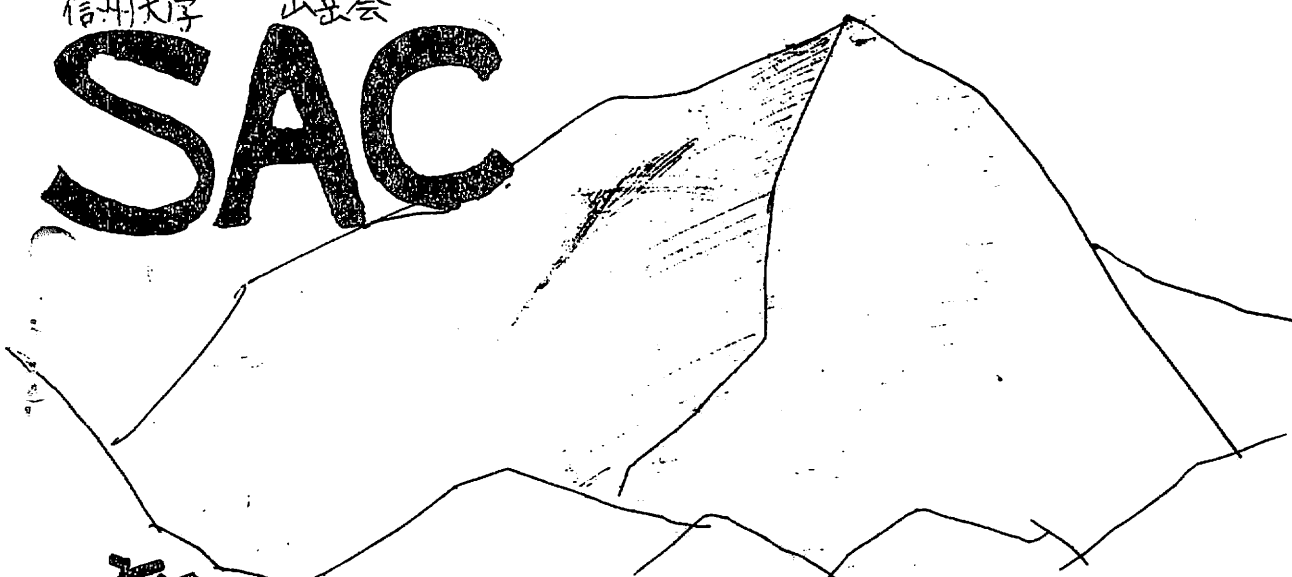


信州大学

山岳会

SAC



無雪期山行報告

'95

備忘録

来々々々々々々々々々



目次	ページ
新人合宿・湊沢周辺	1
夏合宿・剣岳周辺	19
無雪期 個人山行	
中ア 細尾沢	31
中ア 小黒川本谷	32
穂高岳 屏風岩 (山内)	33
穂高岳 屏風岩 (博多)	33
蝶ヶ岳一常念岳	(なし)
白神山地 (青森) 追良瀬川	34
北ア 錫杖	35
屋久島 南北縦断	36
南八番平 (岩手) 葛根田川	37
サマテン山行 ひょうたん池	38
北ア 穂高岳 滝谷	
北ア 縦走 常念岳一親不知	40
南ア 光岳一北岳	43
北ア 縦走 白馬岳一徳本峠	45
屋久島 縦断	49
中津川 魚野川本流	50
谷川連峰 利根川・湯檜曾川本谷	51
北ア 槍・穂高 縦走	52
魚野川 渋沢遡行	
笛吹川 ヌク沢左俣右沢	53
中止になった個人山行一覧	54

今年度の新人合宿も、ようやく終わった。ちょっとしたハプニングはあったものの、それも今後の活動には有益な出来事となったという点で、まあ成功したと言えるだろう。

今、私は今年度の新人合宿も、と述べたが、誤解しないでほしい。新人合宿は毎年同じではない。同じことができるはずがない。私は今まで4回の新人合宿を経験したが、一年ごとに部歴はひとつずつ上り、その年々で自分に期待される役割は違っている。確かに端から見れば、例年同じことをやっているように見えるかもしれない。しかし、それをやっている私たち自身にとっては、毎年が初めての新人合宿なのである。そのようなことをし
 っかり認識していた者にとっては、有意義な一週間となったことだろう。

初夏の松本、新緑間近の横尾BC、そしてまだ冬の溜沢。違う季節を行ったり来たり。もちろんつらいことも多い新人合宿だが、そんな小さな自然にまで目が届くくらいの余裕を持てた人が多かったように思う。登攀隊が3回出せたこと、また本隊として初めて北穂に登れたことなどがよかった。

★ 個人の反省と感想

新人合宿の反省と感想

4年 松本 穂高

登攀隊として、連絡がつかないまま溜沢にてビバークしたことは、BCに大変迷惑をか
 けた。他によりよい方法があったと思う。また、そのような状況に即応できるよう、あ
 らかじめリーダー会もしくは個人で対応を考えておくべきだった。

沈殿がなく、北穂にまで登れたことがうれしかった。

行動記録

5/21 A Party CL) 松本・伊藤・山内 佐々木 前原・小林・花谷

5:32 発◎ ~ 二俣着 6:04 ● ~~発~~ 6:14 ~ 岩魚留小屋 8:08
 ~ 徳本峠 11:27 ● (パーティ行動おわり)

良いトレーニングになったと思う。しかし冬の山はもっとまじいと感^(前原)じた。

B Party. CL) 原田 上山 岸 長澤 磯部 塚 原田

5:30 発◎ ~ 8:30 岩魚留小屋 ● ~ 13:00 徳本峠着 ●

2年生が重い荷物で頑張っているのを見て「男前だなぁ」と思った。
 軽い荷物で自分が恥かしかつた。

徳本峠からみんなで行動 15:00 ● T₂着 (記前原 & 原田)

5/22 CL) 穂高 全員

白沢出合 T.S 起床 4:00 出発 6:00 ~ 徳沢 6:50
 ~ 横尾 8:05 ~ B.C. 8:30 ずっと ●

まき捨い 1年 全員 9:35 ~ 13:00 まき捨い
 3年 原田 上山

雪訓練 2年 全員 B.C. 10:00 ● ~ 淵沢出合 8ヶ所 11:00
 3年 U太郎 山内
 4年 松本 ~ 雪訓 10% ~ 14:40 下山 ~ B.C. 15:30 ◎

感想 今日は昨日に比べると楽しかった。まき捨ひが終った後のテントの中でのみやつは最高だった。塚

今日の行動は短かかったかまるで本隊について行けなかった。雪訓はいい復習になった。斜面では風が非常に強く寒かったので防寒着を着るべきだったと思う。下山してすぐに飲んだミルクティーが非常においしかった。エッセイの人ありがとう。雪訓の説明が不十分だった。夜復習してねよう。(岸)

5/23

B.C起床(エッセ)3:30 出発5:00① 瀬沢6:50①
(大曲がり)瀬沢間タリシユ)7:20~12:15 雪訓①~13:57 B.C①

登はん隊 4年松本 3年上山

雪訓隊 3年上山以外 1,2年全員

感想 今日初めて晴れてくれた。天気はいいぞー!! けど
タリシユはキツかった。死ぬかと思った。死なないで良かった
本当に。人間とう簡単に死ぬかと思った。雪訓はとにかく必
死だった。足の調子が悪かったから少しキツかったけど、そ
れにしても下手くそだった。最初からできる訳がないけどく
ぜしい。 花谷

23日 登攀隊 前穂高・北尾根

メンバー：L松本穂高、上山裕貴子

行動：瀬沢までは本隊と同じ 瀬沢7:27〇~5.6の科尔8:50-9:10 ~5峰10:00

~4峰11:30 ~3峰15:20 ~2峰15:30 ~本峰16:08-16:23 〇~奥穂17:50 〇

~白出の科尔18:30-18:45 ~瀬沢19:30 〇 ビバーク

ルート：4峰の登りは、ルートの取り方を誤るとかなりシビアになる。右側から巻くよう
に登るのが基本。3峰でザイルを出したが、ここは左側から巻くのが基本。2~
3ピッチでピークへ着く。3峰から本峰へは問題ない。吊尾根は雪の状態によっ
てかなり違って来るが、クラストしている場合は、急な斜面での滑落さえ気を付
ければ、快適に歩ける。くさっている場合は雪崩の誘発に注意が必要だろう。奥
穂からの下りは、一度転んだらピッケルストップなどで止まることは不可能と思
われるほどの急傾斜。細心の注意が必要だ。白出から瀬沢は、クラストしている
場合はグリセードなどしてはいけない。

感想：北尾根をけっこう甘くみていた面があった。そのため結果的にビバークという形に
なってしまう、BCに迷惑をかけてしまった。3峰の登りでルートファインディ
ングにてこずり、予想外に時間をかけてしまった。右か左かの判断、および行き詰ま
ってしまった時の判断に要する時間が、もっと短縮できればよいと思う。上山は最
後までしっかり歩いていた。しかし、瀬沢ですでに日が暮れたこと、疲労がかなり
あったこと、また翌日の行動を考えた場合に、瀬沢にてビバークする方がよいと思
った。無線でBCと連絡がとれなかったことが不安だった。ビバークはとても寒く
てつらかったけど、北尾根の縦走はかなり手応えのあるもので、楽しかった。

5/24 こいさつ隊 山内 佐々木 4:35 OBC - 6:00 涸沢①

本隊 3:30 起床① 4:35 出発① - 6:50 涸沢着①
7:00 ~ 10:30 雪訓 ~ 10:40 涸沢発 - ラッセル - 12:10 前穂5山峰
13:35 涸沢発① - 15:00 BC着①

とはん隊、こいさつ隊 本隊は涸沢で合流。上山は雪訓後
涸沢にて待期。

感想 昨夜穂高さん一行が帰ってこなかったの心配だったが
涸沢にいてよかった。まずは安心できた。か"まあ雪
訓はよしとしましょう。何なんだーと言ったかったのが
あのラッセル。いつの間にか1年の方が少なくなってる
し、U太郎さんは鬼のようにゴー、て言うし、うー思い
出しヒーない。でも苦労したかいがあった。5山峰はめさ
やくちゃ 恐ろしかったけど山頂からのなかめはよかった
槍ヶ峰も見えたし 今日よかった。今聞いた話でか明日
もラッセルやるぞうだ。とにかくやるっ きゃないか。
あと4日だ" 花谷

2人涸沢にいてよかったと思った。(山内) おれもどー思った(佐々木)

5/25

3:00 起床(エッテ) - 4:25 BC 出発 - 6:25 涸沢 - 6:42 雪訓
9:06 北穂に向けて出発 10:30 一本(塚をまづ) 11:30 出発
13:30 北穂着 - 13:45 下山開始 - 14:45 涸沢 - 15:55 BC 着

登はん隊 原田 前原

塚、佐々木 涸沢
によりる

6:30 涸沢① - 7:00 5.6のJLO - 9:00 3.4のJLO - 9:30 北穂始
- 40+30+25 - 12:05 前穂① - 15:45 突穂 - 16:20 巨出のJL - 18:05 BC

感想 雪訓三日目、ピッケルスツアが不審だったが無事ク
リアー。今日は雪訓終了後に北穂へ登った。ラッセルが
非常にきつく、塚が厚れた。途中の一本で厚れた塚に佐
々木さんと降りてきさうい。他のものは頂上へ行った。傾斜
がきつくこわかった。頂上直下からのグリセードとシリ
セードは涸沢小屋まで続き、とてもたのしかった。塚と
佐々木さんには残念。

原田さんと前原さんは無事BCに帰ってきたが、到着
と同時に雨が降り始め、明日の行動がきさうと心配。今
りーごー会の最中明日の予定を決めている(19:55)

小林

石炭部はカゼのためB.C.に残る

5/26

3:00起床-----待機-----7:05 B.C.発① - 8:00 新村橋② 花谷
足のケガのためB.C.へ帰る。9:10 3 松高尾根途中で原田
頭を木で打って出血 9:15 下山開始

9:15 下山開始 岸 前原 徳沢へ走る。

9:50 岸 & 前原 徳沢着 常駐隊へTEL

10:20 本隊 新村橋着 シーパで徳沢の岸と交信 「上高地診療所か
ら車かくる」とのこと

10:30 長澤と1年3人B.C.へ帰る。

10:45 車か新村橋着 上山 原田 上高地まで乗って行く。

11:06 松本 山内 佐々木 徳沢で前原 岸と合流

徳沢で学生部 OB 豊田 浩太郎と山田先生と電話で連絡
診療所とも何度か連絡する。「原田工針ぬって下山する」
学生部「事故扱いにはしない。」 とのこと。

12:25 松本 前原 山内 徳沢発

13:40 " " B.C.着

13:50 佐々木 上山 岸 徳沢発

15:00 " " B.C.着①

感想 原田さんがケガをしたときはびっくりするばかりだった
上級生は冷静だった。やはりこういう時の応急処置法は勉
強しておくべきだ。それにしてもケガしなからまげさを
とばしていた原田さんはたいへん男前でした。はさりょう

5/27

登はん隊 山内 佐々木 山内 屏風岩 右岩壁

ルンゼオスラゲルト

3:35 B.C.① - 5:00 取付① - 6:00 登はん開始①

(2P40m) 7:30 下降開始①

水が流れていて岩がぬれていた事と、ボルトの数が足りない事を
判断して下降することにした。

(ボルト2本、ハーケン2本
シュリング1本 石炭置)

- 9:15 B.C.① - 12:30 格。着着 - 12:50 発

佐々木はB.C.に残る

fix 隊と合流



5/27 本隊 起床2:30 - 3:50 B.C 薙 O - 4:04 横尾山荘
 - 槍沢ロッヂ 5:20 - 大曲がり 6:30 O - 殺生ヒュッテ 8:45
 - 槍ヶ岳山荘 9:25 - (9:50~10:15) で 穂先登る - 11:05 薙
 槍沢ロッヂ 13:30 O - B.C 16:10 薙

fix 隊 大曲がり 6:30 先行する - 殺生ヒュッテ手前 7:30 - 槍ヶ岳山荘 8:15
 8:30 薙 - 槍ヶ岳山頂 9:50 - フィックス回収後下山 - 赤沢岩小屋 13:25
 槍沢ロッヂ で本隊と合流 13:50

fix 隊反省 本隊に追いつかれる前にフィックスを張り終えるつもりでがんばったが追いつかれてしまった。非常に残念だった。あと1本目のフィックスのランニングをインパクトで結ぶのを忘れていた。ごめんなさい。(岸)



5/28 6:54 B.C O - 7:31 O 新村橋 (お墓参り) - 8:50 @ 徳沢
 - 9:50 @ 上高地

感想: 上高地で花谷との激しいデットヒートが展開された。花谷はなかなかはやかったがよしん俺様の敵ではなかったようだ。(山内)

新人合宿の反省・感想

山内 哲文

□ リーダー部員としてはじめての合宿だったわけですか。いろんな事が起きて、とてもよい経験となりました。リーダー部員として人を引っ張っていくには、もともと経験が必要だと思われました。山は総合力だと思えます。体力だけでなく、心もさかなく感じました。判断力をつけるにはカニカニ山へ行って経験を積み重ねていきたいと思います。今年の一年生は気合いの入った人が多いうようなのでカニカニ山へいきたいと思います。

□ びょうぶ岩のルンゼ状スラッグについて...。1ピッチしか登れなかったのは、ホルトゥ、たりにして楽しかった。敗退の原因は①水が流れて滑りやすくなった。②ホルトゥが足に届かなかった。③落石がこぼれた。というのがあった。しかし、天気もよく、時間もあつた。だけに、くやまれる。いつかまたきてやると思った。「右岩壁も、さうなら、」

反省・感想 (伊藤重太郎)

途中全くの私用で2日間抜けて大変申し分ない。抜ける前日の登山隊出陣。そしてその間に原田裕介の頭が。3度目のほぼ同じ山域、内容による新人合宿。軽いサク、何をなげれば途中途中で終つてしまうが、いまだにさかなくない。その証明としてこうなつた。今回のようなことごとくいびき、いびきはいけな!。それを見えない重荷とはよく言ふものだ。こいつ非常時に冷静に的確にスベテに行動できるようにしたい。そのためには経馬定。山に登るべし。

ほうた。ゆうすけ

。反省... やっぱり頭をぶって先に下山したのが一番の反省である。自分の不注意でみんなに迷惑をかけてしまった。

入山する時、とても体調が悪く、けっこう苦しい山行だった。でも、体調の悪い人の気持ちがおかた。ちよと入山前に無理をしすぎたので、次回ほ気をつけたい。

新月総会で新人合宿のことについて、しっかり話しあ、たおかげで充実したものになったと思う。みなさんご苦労様でした。

。感想... いや〜つかれるね。上級生は、

ズブの素人から始めて、はや2年がたってしまった。コンパス事件、スパッツ事件など、数々の非語録をのこしたオレが

合宿でかこうつけて、下級生の面倒をみるなんて... とか思うとけ、こうわらけてきちゃう今日この頃である。オレが一年のとき、

新人合宿を終えた時の本気の感想は「こんだけ無理なクラブにいられるか、クヤめたろ!!」とか思ったけど、

山はきれいだし、仲間はおもしろい。このままやめるのほから、あるいわ、とか思っ、てやたら、こまできてしまった。要するに

山岳会にはまった人ですね。でも、オレには、自分の知らない分野であつた山をもっと知りたかった。って気持ちがあつたから、今までやって来た。仲間にも恵まれたしね。今回の合宿は、正直に

充実したものであつたと思う。一時期山に登りたくない時期もあつたけど、フツキれた

「おめ〜ら、オレについてこい!!」

岸 秀 蔵

反省：2年になって初めての合宿だったので自分がなにをすべきなのかがまだ理解できていなかった。そのため、合宿中にまだ1年の時の先輩にまかせきりにするくせが出て、新入部員にはとてもたよりない先輩に思われただろう。そして、普段の山行とトレーニング不足のため体がめちゃくちゃなま、ており、合宿中にまるで動けなかった。一年を引、張るという2年生の決まりを守れなかった。次の縦走合宿や夏合宿ではがんばりたいと思う。

感想：北穂高岳や槍ヶ岳に登れて良かった。奥又白池に行く事ができなかったのは非常に残念だった。しかし松高尾根の取り付きを覚えることができたので良かった。合宿のメシは非常においしく去年のような食いしごきがなくて良かった。レーションもうまかったがちょっと少いようた。徳本峠の登りは非常にきつかった。

新人合宿の反省

二年 前原 徹

今回の山行に対して僕は私用で忙しく、体の調整がうまくいかずカゼを引きずらたまに参加したことが最も残念であった。雨に濡れたりして日に日にひどくなり、満足に動くことができず、参加メンバーに対して多大な迷惑をかけてしまった。後、雪訓に対しても全く準備不足で説明がうまくできないばかりか自分自身、手本にならないような技術だった。

雪訓は実際に山に行けば勝手に技術が身につくと思っていたが、そうではないことがよく分かった。特に人に教えるという点はなおさらである。

徳本峠から入山するにあたり、僕は初めてのことであったが、冬の山行を想定した場合、2年生にとってちょうど良いトレーニングになるのではないかと思つた。自分自身にとって特に問題はなかった。

やはり山行前の体の調整がいかに重要であるか再び思い知らされた山行であった。

本当に今回の山行はカゼに悩まされ続け、そのため、非常に苦しさを感じた。せめて1年間努力して体を鍛えたのに、それを発揮することができなかつたことが非常に残念である。他の上級生達の負担を増やし、1年生にとっては頼り甲斐のない上級生に見えただろうし、非常に情けなくまた申し訳なく思った。但し悪いながらもある程度動くことができることが分かったのは、ある意味で、自分の力を再確認する良い機会だったと思う。

個人的に、去年と比べて格段に楽しい山行だと感じる良い山行だと思った。

登はん隊としての反省と山行

北尾根の核心部 皿峰の登はん中にアイゼン岩トシの不足を非常に後悔した。アイゼンによる歩行は実践である程度鍛えられていたと思っていたが、アイゼンによる登はんになると、また話は別でアイゼン岩トシが非常に重要でただの歩行と登はんとの技術の違いも感じた。またルートに対しての研究も不足しており、吊尾根で異常に時間がかかった原因にもなったと思う。雪のついてるルートに登るのであれば、無雪期に一度は試登しておくのが最低限度必要だったのではないだろうか考えさせられた。

行程も長かったが、この程度は冬では当然のことだとも考えられる疲労度なので体力面でのトレーニングももっと必要だったと思う。

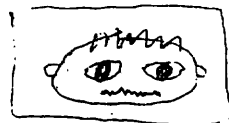
奥穂高岳など穂高の山塊に登ったのは初めてだったし、完登できて非常に嬉しかった。今合宿中、とても楽しい1日だった。

しめしいは

なまえ みすたー 3、くす

ねんれい 20くらい

とくちょう 目が小、Tは 鼻の穴が小、Eは □がひと
それ以外が小E



みつけたら すくー くれんらくを!

新人合宿の反省と感想 長澤 徹哉

まず、うけもた係のことであるが、今回医療をやってみて、その効果と限界も感じた。

合宿では風邪ひきの人が多く、合宿前からのものと合宿中にひいた者があった。これは普段の体調管理を各自こころがけるのが最善の策だと思う。1人1人が今後気を付けたい点です。それと、1年生の数人に靴ずれで悩む者がいた。「1度靴を脱げば、皮が強くたると冬山でも困らない」という某OBの意見があるが、それは足の運びが上手になるからの話だと思う。歩き慣れずして自分自身いびんな箇所を靴ずれを起した。だから当面は十分なバンソウゴウとテーピングを用意する必要があるであろう。とくに予防をしていただきたい。

また、このを通じ「医療」は我ながら何もしてあげられないなと感じた。できることは強力なサセ薬を研究してもっといこうとしたい。救急の処置は今後しっかり学んでいくにしても、実際のけがは各自の注意に委ねられるところが多いと思う。

個人の反省はいろいろある。重い荷を背負ったときの体力を向上させる。持久力をつける。生活面でも自分からいいたいことのいかに多かったこと、それだけしっかり身につけよう。様々な欠点を認識できたという点で収穫の多い合宿だった。日々の努力は大切だと思ふと感した。

反省と感想 佐々木耕平

今日の新人合宿は、やはり初日にひざを痛めたのがまずかった。4日目ぐらいまでケツ朝など痛かった。そのためか余り気分もリリリにならなくて、二年として働いてなかったと思う。上級生及び二年への負担、新人君達への働きなどを考えると申し訳ない。エッセン、習訓等ではそのかり返そうと自分では積極的にかんはたつもりだ。しかし終わってから客観的に考えるとやはり手の足りなかった。もっともっとひっぱらなければいけなかっただろう。とほん隊も、そびの少なで、条件の悪さで失敗した。非常にくやしかった。このやう敗退は最もくやしい。

新人君達はよくやってくれた。あとは生活技術だね、これからだ。自分としては同期が11は多いようで、実は1人もいないと不安かした。しかしかんはらねば。自分のためにも、みんなのためにも。精神的につかえた合宿たが得るものも大きかった。

塚 崇行

反省 - 自分の全身持久力や筋力の弱さを知った。トレーニングによってこれを強化して、バテないようにしたいと思った。みんなに迷惑をかけないようにしなければならぬ。

感想 - 槍ヶ岳に登れたのが本当にうれしかった。思わず涙が出た。

新人合宿を終えて

花谷 泰広

<反省>

合宿四日目くらいから痛みだした足が結局治らず、槍ヶ岳に登る事ができなかったのは残念だった。ちゃんと応急処置をしていたら若くていたかも知れないが、何もなかった。自分の体調管理をしっかりやらなかったのが具合を悪化した原因だ(と思う)。次回(の)山行では自分で最低限の処置ができるように薬品等を準備しておかなければならないと思った。

また、エッセイの時はフレ火が分が「おんどで打ぶった。また、MRのそばでヤカス火も志中(て)いたりする事が多かった。さらに朝食の後個装の準備に時間がかかり、5分以上集合時間に遅れては、みんな迷惑をかけた。この事は自分の気を引き締めるため(で)できることなので、以後同じ失敗をしないようにしたい。

<感想>

一言で言えば、いろいろな面において不完全燃焼だった。全行程に参加できなかった、足を痛めたり、たいてい準備が足りなかった。しかし、写真でしか見たことがない世界を自分の目で見る事ができたという点ではよかった。スノーの大きな積雪期の登山も初めてだったし、ピッケルストップ等の専門も初めてだったから最初は何をしていたのか分からなかったけど、次第に慣れ込んで、下手ながら一通りできるようになった。それから北極沢をシリヤードで降りたのが一番おもしろかった。今度は槍ヶ沢とか自出の川からとかでシリヤードをやってみたい。先輩の方にスピード狂になりましょうとか.....

磯部 和哉

新人合宿では、一年生部員の中で一番のろまではずかしがた。体力のなさを痛感した。今年はどんどん山に行つて強くしたい。基本技術があやふやだったのは情なかつた。ロープワークやユツセンの仕方に行く前に十分個人的な確認をしておくべきだった。出発前に合宿全体をイメージするゆとりがなかったことが、いけなかつた。このために徳本峠などでは無限の道のりと思つてしまつたし、洞沢までの道のりも遠く感じてしまつた。途中がぜをひいてしまつたのも同様のことか原因がた。毎日明日はどんな日になるか分からないまま、体力配分もできていなかつた。山でがぜをひくということを考へていなかつたので、下り止めしが持っていけなかつたのは、うっかりしていた。奥又白へ行く日 ライトで1日休ませてもらったのは残念がたが、このおかげでどうにかこうにか、橋へ行くことができた。以上のような反省を次の山のぼりで生かしていきたい。

新人合宿の反省と感想

1年 小林 茂幹

反省： 山岳会に入ってから初めての長い山行である新人合宿に、反省する点が多い。まず、合宿を通して靴ズレに苦しんだことだ。行く前から靴も慣らすように言われていたが、「大丈夫。」と思い何もしなかった。また、及の登山靴が初めてのたの、中履きのことも知らず、そのままで履いてしまった。そのために、かかとに加えて、足の裏にまで水ぶくちが出来てしまった。次回の山行はちゃんと履き慣らして行きたい。次に、行動中の記録がしっかりと出来なかったこと。これは、体力の不足のため、一本のときに休むことに精一杯だったからだと思う。上級生との体力の差が分かり、トレーニングをしなけければと思っている。次に健康管理。合宿の5日目から風邪を引いてしまったのは、その日までの疲労と、雪の上で長時間寒いのを我慢していたからである。体力に加えて、寒いときはすぐセーターや帽子を着るようにしたい。また、その風邪のために七日目の槍ヶ岳へ行けなかったことがとても可哀しい。原田さんのこともあって、山での病气やケガは、一歩気を付けなければいけないことだと実感した。

感想： 合宿中、うれしいことが多かったのはもちろんだが、その中でも楽しかったことが印象に残った。三日目のニピツクを終えたあとの淵沢からのながめや、長いラッセルのあとの六峰と北穂の頂上は、なんともいえない感動だった。

原田 亮介

(感想)

1週間という長い期間の山行は初めてでしたが、毎日のスケジュールがハードで次の日のことを考える余裕もなく、その日のメニューをこなすことで精一杯でした。しかし、ケガもなく病気をせずに最後の日まで通せ、3つの山の頂上も踏めたことは自分にとって満足の結果でした。

特に槍ヶ岳から見えた景色は記憶にはっきりと残っています。360度どこを見ても山ばかり。このうち卒業までにいくつの頂上に立っているかと思えばやる気持ちはあふえました。

(反省)

新人合宿の反省点はたくさんありますが大きなものは2点です。

1つは、何んといっても体力の不足。余裕があれば地図を見たり、風景を見たりと楽しめが増えるのと何度も実感せられました。

2つ目は忘れ物が多かったこと。朝忙しくて、忘れ物の確認をする余裕がなく大切なものも忘れて苦労したことが何回かありました。全体を通してラッパリミスが多すぎました。何をか注意で防げるものが大半なので以後気をつけたいと思います。

☆ 係からの報告・反省

装備からの反省：白ガスはほぼ計算通り使えた。予備

(岸) のたき火投入用のガソリンは持て行かなくても良かったろう。出発の時からMSRを忘れていたのは失敗だった。やはり忘れ物をなくすためにも、各自の団装は把握しておくべきだった。その他の装備はおおむね数が足りたが、OB天として持て行ったICIテントはいらなかったと思う。あと登はん隊の装備は各自でそろえる方が良いと思う。

新人合宿会計報告(担当)伊藤

<収入> 個人負担金		158174
内分け	{	
	メンバー×13	11273(×13) 146544
	松沢(食費・帰りタクシー代)	2600
	三木(帰りタクシー代)	1300
	原田(帰り交通費除く)	8025
Boxより		390
田尻さんカンパ		3000
	計	161564
<hr/>		
<支出>		
エッセン代		74612
レーション代		17843
渉外コピー代		470
装備		9452
交通費		59190
内分け	{	
	行きタクシー代(松本-島ヶ沢)	7840
	ガソリン代+お礼	1000(×3) 3000
	帰りタクシー代(上高地-沢渡)	4000
	(上高地-松本)	14000(×3) 42000
	ガソリン代	400
飲食代	150(×13)	1950
	計	161567

新人合宿渉外報告(担当)伊藤

- ・ 行き帰りのタクシーに毎年第一交通を利用している。入山前日に連絡し、行き帰りの予約がある時におけるお交渉すると之割を引いてくれる。
- ・ 交通手帳として、地利 誰か(山岳会関係者)に頼み車を出してもらうようにすると、とても安く済む。今日は行きに伊野さん、博多さん、藤江さんに頼み、帰りは三木さんに頼んだ。
- ・ きちんと記録しておかないと自分のお金(特に小銭を払う時)とまぜこぜになってしまう。シートでおいかぶさず、もってきてもう。
- ・ 今日担当者の私が途中で下山した間にケガがあり臨時に金が必要になった。個人負担金を事前に集金する時にギリギリの金でなく少し多めに集めれば、こういう時にうまく対応できると思う。とてもなれば、保険にかぶせて、事故を予想し、こういう時のために別個で何万円かお金をもって置くのも手だとも思う。

エッセンの反省と感想 佐々木耕平

初めこのエッセンだったが概ねうまくできたと思っている。反省すべき点は米が1.4合/人・日のつもりでもついていたのが管理がずさんだったため最終日足りなくなったことである。やはり腹がへったのかおかずがうまかったからか1.4合/人・日だと足りない。私としては後者であることを願う。実際今回のエッセンはおかずは屈指のうまさだと思った。辛いのが苦手な人にはかわいそうだったかも知れないが、ここはエッセンの権力を行使してもらった。朝メニューもOK! 昼メニューもOK! レーションは伊予郡奥につくってもらった。非常に助かった。調味料もOK! アリカケはちよっと多かった。肉は60g/人・日と大幅抑したが、またもゆかりに食べられた。無念...。また前エッセン隊長の報告通り、おかず等は2.5皿/人が適当であった。麦茶等の量も計画書の通りで適当であった。新メニューの開発もできた。吹田のエッセンの人に期待する。
最後に一声

「みんなおいしそうに食べてくれてオレはうれしーよ。」

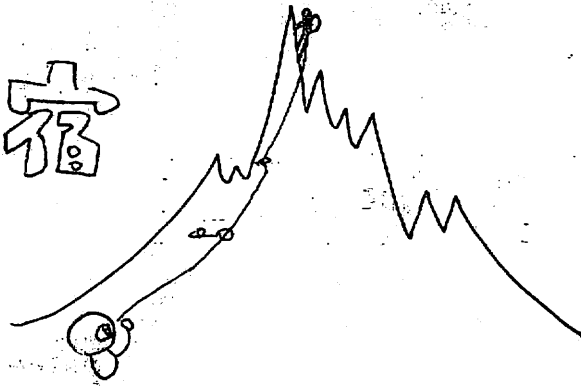
「気象」係としての反省と感想

1週間分前の天気図を集め、週間予報等の情報を集めプリントするという基本的な作業が遅れてしまったのは全く怠慢であり情けなく思った。

準備するときにラジオや天気図用紙の用意は準備係に任せていたのだが、こういうことは気象の係がすべきではないうろうか。教員等をきちんと把握しておけば多くの一年生にもっと天気図の練習をやらせようことができたのではないうろうか。

他は特に問題なかったと思う。

夏合宿



夏合宿を終えて

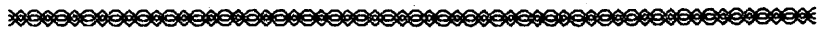
CL 松本 穂高

無事に終わってよかった。5日間の登攀では、かなり各人の希望ルートを取り入れることができたし、また八ツ峰VI峰やチンネだけにまともらず、他の岩場にも行って登攀ができた。そのような点では、充実したものとなったと言えるのかもしれない。

しかし、ルートファインドミスをしたパーティーは数限りなく、また、けがこそなかったが、墜落事故も発生してしまった。個人の登山志向に偏りが出てきてしまった現実を考えれば、学年による画一的な役割の分担に限界が見えはじめ、各人の実力を考慮した活動計画の考案が必要になってきたのかもしれない。より極端には、個人山行で岩登りをしない人には、山岳会を離れてもらうことも、考えなければなるまい。

ともかく今回の合宿は、1年生の技能や積極性に対して、上級生のだらしなさが目立つものとなった。岩登りとともに山岳会のアイデンティティが最も発揮される冬山登山に向けて、部員の意識改革と山岳会会員としての自覚を促したい。

★行動記録



夏合宿 (記録)

8/23
 Box集合 5:00 Aパーティー Bパーティー
 扇沢駅 6:30着 7:30発 L松本穂高 L伊藤勇太郎
 黒部ダム 7:45着 A8:00発 岸 秀隆 前原 徹
 B8:05発 長沢徹哉 磯部和哉
 内蔵助谷出会 A9:40 B10:00 小林茂幹 堺 崇行
 内蔵助平TS A13:25 B13:20 花谷泰広 原田亮介
 夕立あり 感想 まままあだった。(堺)
 なかなかだった。(堺)

堺 崇行

8/24
 ①T1発 A4:50 B4:55
 ①ハシゴ谷乗越 A7:00 B7:00
 ①真砂沢ロッジ A9:34 B9:40 A,B 合流
 ①巖の岩BC 13:55
 A
 L松本、長沢、前原、磯部、堺
 B
 L伊藤、岸、小林、花谷、原田

8/25

A1パーティ L松本 岸 前原	A7ヶ所魚津高ルート ①取付6:00 ↓ 終了8:30	B1パーティ L伊藤 長次	Cパーティ L前原 岸 長次	釣検会ルート ○取付9:30 終了13:56 BC着15:25	A2パーティ L松本 磯部 小林 花谷	BC発! Aフェース下 Cフェース RCCルート BC着14:00	B2パーティ L伊藤 岸 原田り	BC発! Aフェース取付 魚津高ルート A7ヶ所の頭 12:20 BC着
--------------------------	--------------------------------------	---------------------	-------------------------	--	---------------------------------	---	---------------------------	--

感想 ちょっと怖かったけど登れてよかった。
初の本チャンは緊張しました。

8/26 4:00起珠 5:20出発

Aパーティ L松本 小林 原田り	京大ルート 取付14ピッチ 終了7:30	久留米大ルート 取付9:30 14ピッチ 終了12:30	Bパーティ L伊藤 磯部 花谷	C7ヶ所釣検会ルート 取付6:00 50mスラブフェース 45mワジ 右横のフェース 45mワジ 25mワジ 終了C7ヶ所頭8:30	D7ヶ所富山大ルート 取付10:15 45mスラブ 35mフェース 核心 45mバンドトランスワジ 50mワジ 10mワジ 終了D7ヶ所頭14:00
Cパーティ L前原 岸	RCCルート 5:55取付 6:18 1P開始(9分) 7:13 2P 7:54 3P 8:44 4P (40+40+35+45) 9:15 C7ヶ所頭 A7ヶ所中大ルート 10:15 取付 10:35 1P開始 11:55 2P (35+40+10)4ピッチ 13:00 A7ヶ所頭	C7ヶ所の下りで少し間違え時間を取 Fix 通過はやっぱり怖い!	Dパーティ L岸 長次	富山大ルート 取付6:00 ↓5ピッチでめける 終了10:55	中大ルート 取付12:40 ↓3ピッチでめけた 終了14:20
					BC着 15:30 最終1ピッチで雨(夕立)がポトポト 降ってきて全身びしょぬれ。 雨かどうも違っていらしい。雨が降って きた!頭の上から滝が落ちてきた。

RCCルートは取付の支点のつかかかほとんどない。ルートはどこにでも取れる。

中大ルートは1P目間違えかけたが全体的に好ルートだと思う。

8/27 3:50起珠 5:15出発

チンネへ

fix 隊 L原田ゆ 岸 fix はDフェースの先からヌーメラヌーメラまで3本張った。

Aパーティ L松本 岸 原田り	左下カンテ〜aルート bワカ ①三ノ窓 8:15 ①取付 8:40 9:00 5ピッチ 中央バンド 13:45 14:20 中央バンド頭 15:25 15:40 3ピッチ ●BC 17:00	Bパーティ L伊藤 磯部 小林	Gチムニー〜CDワカ 三ノ窓 8:15 取付 8:30 8:45 中央バンド 13:40 14:00 チノ頭 15:25 15:45 BC 17:30	Cパーティ 北条・新村aルート・Bワカ L原田ゆ 岸 中央バンド 10:50 取付 11:20 - (25m, 40m) 終了 12:30 BC 14:20
--------------------------	--	--------------------------	--	---

左下カンテはちょっとこわくて時間がかかってしまった。ガスにまかれるとそれだけで不安になってしまう。(ほたか)

中央バンドまでは少しルートが間違ったのでこわい所があった。(イソベ)

一ピッチ目はザイルを出さずに登ってしまった
北条・新村の核心はA1で登った。早くめけてよかった。

Dパーティ A7ヶ所魚津高ルート

L山内
登はん後 下山
花谷

Eパーティ 左後線 上部〜下部連続

L前原
長次
①取付 8:35 1P 30m+2P 32m+3P 30m
①開始 8:56 歩いた+5P 40m+6P 40m+7P目ビナクルの林立するリッジ 40m+15 11:20着
8P 40m+9P 30m+10P 35m+11P 20m ~チンネ頭4:26 ①

左後線の核心部こ小ハジをフォローながらつかまずに登れたことは大変満足できた。15:00 哲也さんと話す〜15:30 ①ヌーメラ〜16:30 ②aフェースの岩小屋
登人はこらしめましょう。左後線 前半はかなり早く登れたと思うが後半、ガスにまかれたりしてだれて遅くなった。途中
長次 Fixを張る人がいたのにはあきれてしまった。 T. Mae

8月30日 Eパーティ (L)前原 長次

源次郎尾根・I峰上部 名古屋大ルート

B.C着 4:56①〜II峰ケンスイ地点 5:20①→1P→源次郎尾根から中央バンドAの入口 T:30①
〜T:50① 取付〜8:18 登はん開始①

1P: 45m 8:08着山 長次 2P: 20m 9:30着 (L)前原

3P: 42m 12:00着 (L)長次 4P: 20m 12:30着 (L)前原

II峰ケンスイ地点の上 13:50①〜B.C着 15:45①

1P目でC.Jのルート図の1P.2P分登り。2P目でL+図の成城大ルートの3P目を登ってしまったと思う。3P目で大カンテの人工ルートを登ってしまったようだ。右カンテルートはハケンとボルトがバタ打である。

できれば名古屋ルートをきっちり登りたかったが、それなり充実した登りだった。もっとルートファインディングに注意すると同時にルート図をもっとしっかり見ようと思う。(前原)

分らずにルート図の2枚の子分を1枚の子分として登り、おまけにテラスの逆に出るルートも誤った。当り前のことだが「よく見ることは大抵正解だ」。たまたま登りたけでなく正確に登るよう心がけた。(長次)

8/29

Aパーティ チョ 中央チーム〜左方カントー
 L松本 ①BC 5:00
 磯部 三ノ志 6:35 6:50
 中央チーム-取付 7:20 7:35
 ①中央チーム 8:40 9:15
 チョ 頭 11:45 12:15
 ①BC 13:35

中央チームは二回目だったが、とてもやさしく思った。左方カントーは前々日に行きそびれてしまったところで、登れてよかった。僕はA1でガチャガチャ楽しくやっていたがいそべはオールフリーで来てしまった。うまいぞと思った。(ぼたか)

8/30

Aパーティ ハツ峰VI峰〜本峰南壁〜継続登山
 L松本 ①BC 4:55
 小林 D7〜富山大 5:13 5:35
 ①D7〜頭 7:35 7:55

チョ:池ノ谷の睡間の
 加より池ノ谷割
 北方稜線(懸垂下降一回)
 長治部の岨 9:30 9:40
 本峰 10:00
 ①平蔵の岨 10:20 10:40
 本峰南壁AⅡルート 登山
 本峰 14:05 14:20
 ①BC 15:10
 北峰稜線は情報がないまま行ったが、てくてく歩いて拍子抜け。南壁AⅡルートは上部は岩がとてもしろくてよかった。本峰に抜けられるのは気持ちいいが、あまりおすすめルートじゃないです。(ぼたか)

Bパーティ チョ 左稜線〜

L伊藤 ①BC発 5:05
 堺 ①三ノ志 7:00
 ①左稜線取付 8:00
 ①左目終了 10:30
 ①核心(v)手前 12:50
 ①チンネ頭 15:45
 ①5,6のころ 16:50
 ①BC 17:05

左目目のルートは左側を登り(iv+ぐらい)堺が登れず(ハーケンのきき甘くA0,A1できなかったため)時間をくう。v級の核心はA0で登ってしまったが、フリーでぬけられないこともないと思った。時間がつかない。左稜線はなるいのでザイルの出が非常に悪くめんどうきかった。チョ:交指をきちんとしなかったため、帰る5,6のころまで迎えに来てもらってしまった。(ゆ)

Cパーティ チョ 源治郎尾根

L原田ゆ 取付 6:15
 前原 終了 10:45
 小林 BC着 14:30
 原田ゆ ふみ跡あり明瞭
 楽しかったわ!

Dパーティ 本峰南壁A2ルート

L長沢、岸 ①BC 5:00
 ①剣岳山頂 6:10
 A2取付 7:30
 (40m+20m+40m+30m+40m+40m)
 ①剣岳山頂 10:47
 山頂出発 12:30
 ①BC 13:30
 本峰南壁は非常にやさしいルートだと思いました。リッジを登るのは非常に楽しいものです。また行きたいなあ。(岸)

Cパーティ

L原田(ゆ)、堺
 ①BC発 5:00 40+40+40 アテを50+30で
 ①長治部雷沢出合 5:35 ①前後着 14:10
 ここで計画をかえ、別山 ①剣岳 16:00
 へ向かう ①BC着 17:20
 ①別山 7:55 初心者のようなミスをして
 ①剣岳前 9:00 てしまい反省しています。
 ①一般鋼 10:00 堺君には悪いことをして
 ①トワイリスで前側の 山尾根は気持ちよかったです。
 支稜に取り付く 楽しく、つらい(?)
 縦走でした。(原田ゆ)

Dパーティ

L岸、原田ゆ
 ハツ峰VI峰
 D7〜久留米大
 C7〜RCC
 剣峯会
 ①BC発 5:00
 ①久留米大取付 5:45
 (40+35+40+40)
 ①終了 7:45
 ①RCC取付 8:55
 (35+30+35+25)
 ①終了 10:35
 ①剣峯会取付 11:25
 (25+37+40+38+40)
 ①終了 13:00
 fix 回収して下山
 BC 14:00

* B party L:伊藤、ウヰイ
 源治郎尾根 平蔵谷割 北峰大ルート
 上部

非常に良い経験だったと思う。一年生を引っぱって行って、早いペースで登れて良かった。ハーケンもけっこう打ったので練習になった。(岸)

5:00 BC発 → ① 5:45 源治郎尾根取付 (雪の上に乗換わり) → ① 6:30
 木ノ上にてお休む。源治郎尾根途中のアイランド(3ノ志)で足踏りして、
 ① 7:30 中央チームと合流。① 9:00 取付 → ① 10:00
 ① 11:00 トワイリス (雪は厚く大ルート途中の石が滑りやすかった) → ① 11:00 トワイリス
 の下降を共に。本ルートより、トワイリスの下降は、トワイリスに合流後
 ① 12:00 トワイリスが3ノ志(雪)で降りる。トワイリスが3ノ志(雪)で降りるため、登り続け
 → ① 14:00 左方カントールート核(①)を抜け、トワイリスと合流前(①)で合流して、
 ① 15:00 左方カントールート核(①)を抜け、トワイリスと合流前(①)で合流して、
 ① 16:00 左方カントールート核(①)を抜け、トワイリスと合流前(①)で合流して、
 (3ノ志)で合流前(①)で合流して、トワイリスと合流前(①)で合流して、
 ① 17:00 北峰左麓(3ノ志)で合流して、トワイリスと合流前(①)で合流して、
 ① 18:00 BC ① 18:50 BC

ルートは、アイランドに降り、トワイリスで降り、トワイリスで降り、トワイリスで降り、
 ① 17:00 北峰左麓(3ノ志)で合流して、トワイリスと合流前(①)で合流して、
 ① 18:00 BC ① 18:50 BC

8/31
本坂 ●BC発 5:05

●真砂沢ロッジ 7:15

Aパーティー
 L松本 ●真砂 7:40
 岸 ●ハシゴ谷乗越 9:30
 長沢 ●照部ダム 14:55
 小林 ザーザーの中びしょびしょ
 塚 になってヒューヒュー歩いた。
 やっと着いたダム駅では
 「大雨のため選林」の貼り
 紙に泣かされた。

Bパーティー
 L伊藤 ●真砂沢ロッジ
 原田ゆ ●ハシゴ谷乗越 10:30
 前原 ●内蔵助平 12:00
 磯部 ●内蔵助谷出合 13:30
 原田り ●照四ダム 14:20
 ハシゴ谷乗越から内蔵助平
 までの下りは、陰下(場合
 によっては腰)ぐらいまで
 水につかっての沢下り状態
 トップが前原だったため快
 観なペースでバテる人もな
 く雨の中サクサク歩く。

9/1
照部ダム=長沢=松本

感想と反省 塚 崇行♡
 自分の仕事はしっかりとやらなければ
 いけないなと深く思った。
 それにしても、勇太郎さんの字は読み
 にくい。もう少し丁寧に書いてもらい
 たいとチャットだけ思った。

剣岳源次郎尾根I峰上部フェース 滑落報告

1995年8月29日 メンバー: L.伊藤 勇太郎・磯部 和哉

夏合宿6日目、成城大ルートに登はん中フォロ-の磯部が2~3mほど滑落
 幸い手に軽い切り傷を負った程度のケガで済み、大事にはまいたさなかつた。精神的
 ショックは多少なりともあったようだが、下降より登はんの方がより安全と思われたので、
 右カンテルート(IVAIのヒキ50m)に登り登はんを終了した。今日のケスは私の無責任
 な言動と未熟な登はん能力(特にルートファインディング能力のなさ)が原因である。以下
 事故の詳細と反省点、改善点を記す。

まずルートファインディングが始めから間違っていた。取付は正すがに間違ゆるなかつたが、1.2ヒキ
 と右にそれすぎると、2ヒキ目終了テラスは名倉屋大ルート3ヒキ4目のハイマツテラスに11たと思
 われる。この日は前原・長沢パーティが名倉屋大ルートを先行していたが、左の方より音が
 聞こえたため、こより左へトバースすると(残置ピトあり)前原がビレイ中で、大カンテ
 ゼいのテラスのようなので、トバースが5.5~6m クライムダウンした。(残置ピトにアジミ)
 クライムダウン時はフォロ-が漆油木ボリドと同じ滑落距離となる。フォロ-
 の磯部はクライムダウンの場所へ来ると止まてしまった。そこは2cmほどしか
 入っていないハーケンに乗るかフリーでさ下に下のハーケンまで行くかの場所で、

私は「体重だけならこのハーケンだけでも大丈夫だ。」と言ってしまう。(実際、私がリードした時は少しだけこのハーケンに乗った) その結果がこれである。

この場合、リード中にハーケンを打ち足して落ちないように行けるようにしてやるべきだったが、ハーケンの根元にタイオツして乗るが、あるいは何も言わず、石や岩自身を判断にまかせるかするべきだったと思う。

その後、不幾部が言っていたが、自分の身は結局自分で守るんだということ。そして、はじめの人間に対しては特に責任をもってアドバイスしなければ信用をなす(可い)ことをあつためて思いました。

(伊藤)

★個人の反省と感想

夏合宿の反省と感想

4年 松本 穂高

もろい岩場になると急に登攀のスピードが遅くなってしまうのをなんとかしたい。やはり本番の岩登りでは、フリーのグレードなんかよりも本チャンの経験が一番ものを言うと思った。感想は、たくさん登れてうれしかった。合宿直後に重要な試験が控えていたのが気がかりで、熊の岩での生活が思いっきり楽しめなかったのが心残りだ。

Date

夏合宿の反省と感想 けらたゆうすけ

私の個人的な事情で、3日間行けなかった。申し訳なかつたと思ひます。反省はたくさんある。まだまだ山を始めて3年目。たけどS.L.責任を感じてるけど、きんきで気持ち山にのぞみたと思ひます。

夏合宿の反省

山内 哲文

集中講義のため合宿に参加できなくてとても悲しくまた申し分けなく感じた。

しかし土、日を利用して熊の岩に1泊でもできたのは楽しくよかった。

下山の日に魚津校ルートを登ったが、扇風の事故以来初めての岩登りで、

「岩に対する恐怖の心」が自分にいまも残っていたのか分かった。星がきれいだった。

No. _____

夏合宿反省と感想 ・ 伊藤 豪太郎

_____ ()

荷は軽くなるが責任は重くなる。昨年1年間山委にいらしたので、他のメンバーとの距離も感じ、また3年生といえども3年生とはなかなかならぬ。クワイミングに関しては軽腰のなすがてき面にあおわれて、5日間毎日帰天するのが最後のパーティで、ルートファインディングをまともにできなかった。あげくのはてが沢次郎I峰での石部滑落。(別紙) 合宿の行程をこなすのがやっとだったというのが正直な感想かもしれない。人に言ったことは自分ができなければ山では通用しない。まは個人山行して経験を重ねます。

夏合宿の反省と感想 長澤 徹哉

今回は歩荷・登山ともに充実した合宿となった。40kgも超す荷物でも余裕をもった歩けりょうになった。登山はアロ-ながらV級もフリーで抜けるというところである。

あとは他の者の行動力にも目を配りようになるがまだと感じた。

登山のルートファインディングも自らかえまかったのは反省すべきところだ。

反省と感想 岸 秀蔵

○初日と2日目のザックの重さが軽く40kgを超えていたにもかかわらず、たいしてバテなくて良かった。1年生を引張っていたのが良かった。登山では支点の作り方、ルートファインディングに迷いがあり非常に遅かった。しかし、去年マローでも怖かったルートがリードで登れるようになった。夏合宿前に本キャンプに行っておけば良かった。1年生の面倒を細川所まで見てやれなかった。天気図を取り忘れた。チンネはあいかわらず天気が良くなかった。雨の中の登山は厳しかった。

反省と感想

Ⅱ年 前原 徹

反省 — 僕はアルパインスタイルでの登山は正直言ってあまり好きではない。何故ならゲレンデ等で「行なうフリークライミングとは格段に危険度が高く、怖いからだ。従って、これまでアルパインスタイルでの登山経験が乏しく、今回それによる反省が多かった。時間的に余裕がなく、ルートファインディングのミス、ザイルワークの拙さなど情けない限りである。やはり経験がものを言う世界なのだ実感した。自分が好きではないことでも合宿に参加する以上、ある程度経験を身につけておくべきだったと思う。

また、今回は積極さに欠けていたと思う。自分で事前に行くルートの研究しておくのは当然なことであり、それを行なてなかったのは怠慢だった。以後、注意したい。

感想 — 今回やる気に乏しく積極的な行動ができていなかったため、充実感に欠ける。最終日に行った源次郎尾根I峰上部名古屋大ルートとチンネ左稜線上、下部ルートは2年生のパートナーの長澤君と話し合っ決めてルートであり、それだけに充実感が楽しかった。やはり、自主的な登山こそ楽しく、充実したものであり、受け身の登山姿勢は避けたいものと思った。

夏合宿に入る前に僕は大変なミスをしてしまった。実は、日程を1日間遅らせてしまったのだ。サマタの撤収が8月2日にあるが、それを22日だと勘違いしていた。当然、23日は準備して、24日から出発、と思っただけだった。22日朝に上高地に行くと、あるはずの起野下テントがどこにもなくて夏合宿のレジューを見た。23日出発とあるではないか!! 正味27年になってしまったが、穂高マスの顔に「ヤレヤレ……」という文字がほ。きりと現れていた。2時間おくらで同装準備に切りかえたが、放心状態で何をやってのやら命がけで逃げた。何とか同装の準備を終えて寮に帰って、同装をサックにつめてBOXにカブリ。同装と一緒にドッキングして、計量したら40kgの1かりがふりこぼれていた。下から45kgはあったのだ。不安ではあったが、前日夜行バスでほとんど眠って、たまたまとばかり寝た。次の日は予定通り黒部湖から内蔵助平まで歩いたが、日頃のトレーニング不足で大変だった。飲んで水が汗に化して流れ出ていった。水はありがた飲みすぎるかと思っただけだ。2日目1日目とほとんど変わらないうらまひで、特に真砂ロッキージャの1日目、午後は他のメンバーは大変迷惑をかけてしまった。2日からは熊の岩にかた時は大変うれしかった。2. 岩登りの方では授業が、たまたま、Aフェース魚津高、CフェースRCCル、金橋会ル、Dフェース富士山入ルにや登りかただが、初めに本キャンの恐ろしさを味わった。10m高からなか、たまたま登りかたからの満足感、普通の本行では味わえないものがある、とてお気持ちよかった。本当ならば、今度行きたかった、たまたま、授業のことでおぼろげに見るとおぼろげに残念だった。これが心残りである。また今度個人山行でぜひ行きたい。

夏合宿の感想

櫻崇行

- ・今日の夏合宿は新人合宿にくらべて体力的にはあまり問題はなかったと思えた。
- ・岩や雪があるとこは、まだ少しこわい。
- ・これからのためにトレーニングをしようと思った。

夏合宿 反省 感想 磯部和哉

初めての岩登りで楽しかった。荷物も重たかったがそれ以上に岩に登ったときの達成感、は大きかったと思う。剣岳は静かで大きかった。いつか冬に来たいと思った。

夏合宿、反省

原田亮介

岩登りについてはほとんどに体力不足を感じた。合宿の準備も前もっていいなかったため、前日に十分に寝るの準備もできなかったのも苦しい理由の一つ。

岩登りについては初めは恐しくて必要以上に緊張してしまっていたが慣れるにつれ動作が落ちついてきた。ギール操作も大分上手になり、登山の最終日には簡単なルートと併走するも登ることができ、自信ができた。

反省と感想

小林 茂幹

反省△ 初日と二日の歩荷は、縦走合宿でついた体力のおかげで、苦しい時もあったが順調に歩けた。しかし、36kgぐさいについていくのに精一杯の重さだとわかった。

登山が始まると、初めての本チャンに緊張し、ギールの残りの長さをコール忘れてしまった。また、すべてがフォローということで、ルート研究やルートファインディングに積極的ではなかった。自分がそのうちリードすることも考えると、練習の機会を逃した気がして残念だ。フィックス通過の方法をいいかげんにしか覚えていず、最初は手間取ってしまった。また、大系などの資料の用語などに知識がないことも気付いた。

感想△ 合宿を終えて思うことは、やはり山は楽しく、岩登りは面白いということだ。怖いときもあるし、危険なときもあるが、何だかわからないが楽しいのである。できるだけ多くの山に行きたい。

1人当り 米の量を 1.5合にしたが、少な過ぎるという意見が多かった。しかし昨年度では 1.2合ぐらいで十分だと報告されており、昨年度とのメンバー構成の違い(たつきし食べる人が多いか少ないかの違い)も考えて量を決定すべきだったと思う。また上級生と下級生の人数比により、荷上げする重量も変わってくるので、この点も考えておかなければ荷物が重過ぎて行動力に支障をきたすおそれがあると思う。

メニューを考えるにあたり、部員の好みを把握しておくべきだと思う。これは調理する人にも言えるだろう。今回、キムチ鍋が辛過ぎて食べれないという意見が多かったが、必ずしもメニューの段階での誤りだけではないと思う。調理するときに辛い鍋と辛くない方と2つに分ける等の工夫があれば大丈夫だと思う。調理する人は自分の好みに合った味つけを行なうのではなく、万人向けの味つけを行なうくらいの余裕があるべきではないだろうか。食いしごきは本当につらいのだから。

今回、僕は初めて合宿のエッセンを担当したのだがなかなか面戸かった。しかし手の行き届かなかった点も多かった。調味料等は自分の計算では足りていても実際味が薄かったりするが、それはエッセン係とその日の調理者とのユンタクトが足りないのだと思う。分からないことがあればすぐ尋ねて欲しいし、また面倒がらずに答えたいと思っている。

荷上げと重量のバランスをしっかりと考えるのも担当者の仕事だと思っている。食事を充実させるのは簡単だがそれに伴う行動力の低下も少なからずあると思う。このバランスをうまくとるのが山行の成功につながる場合も多いので注意すべき点だろう。

最後に買い出しについてだが、今回効率が悪くなってしまった。買い出しに行く人全員が何を買わなければならないのか知っておく様に担当者は連絡すべきだったと思う。また広い店舗に行った場合にどこに何があるのか売場を知っておかないといたずらに時間がかかる。賢い買い出しで、準備の時間を短くすることができるので今後は、このような点にも留意したいと思った。

★係からの報告・反省

95年・夏合宿の会計報告

長澤 徹哉

予算: 1.8000 x 9
 9000 x 1
 1.0800 x 1
 1.0000 [植垣さん5000
 [百瀬さん5000

} 19万1800円

支出: 食糧代 6万6605円
 ろうひ代 1万7563円
 雑費代 1514円
 道料代 2900円
 交通代
 往き 1万2400円
 荷代 1680円
 帰リ 1万2400円

} 11万~~382~~円
 5062

残金 7万6738円のうち 松本・伊藤・原田3氏に
 車代とい 1500円かつお渡し、
 特別会計に1538円くり入れ、
 返金は1人あたり7000円となりました。

昨年と比べみると ろうひ代が相当低い(約7万)。
 やはり早目の準備が交力を奏したというべきでしょう。
 それと 下の橋が使えたので 空室経由は避け
 られ、大幅な返金となりました。めでたし。

装備の反省

岸 秀 蔵

★消費量

- 白ガス ^{持て作らば} 9ℓ → 全使用量 6ℓ
たき火に投入 500ml
予定外黒部ダム駅ビバ-7 1.5ℓ
ESSEN 4ℓ → 45cc/日人
- ロ-ソク 25本
0.25本/日
 - メタ 72本 (7ハコぐら) 8本/日
 - 電池 32本

★残置

シュリンケ × 8 ハーケン × 5 カラビナ × 4

★反省

白ガスの量がちよ、と多かた。80cc/日人よりも、60~70cc/日人で良いと思う。去年は大なべ4台た。たか今年は大なべ1台 コッフェル 2台でなんとか足りた。そのため白ガスの使用量が少なかたと思われる。装備テントを立てて正解た。各10-ティごとに装備の振り分けがスムーズに行なえた。今回は新しい手法としてガスフレ火をやる人が多かた。メタフレ火に比べガスが出るのが難点たが、時間と手間を短縮でき、白ガスをたいして使わずにすむため良かたと思う。使用不能になた物、ガス板2枚、マントリン4本、やかん1個、ダンロップテントのファスナー。取り扱いは充分注意しよう。

医療からの反省

小林 茂 幹

今回の合宿では、医療缶を開けることはなかつたが、それは、
何かや病気があっても個人装備の薬品で対処できるもの
ばかりだ、だからということになる。そうすると、それ以上の
症状の場合は医療係の仕事となり、それなりの知識が
必要なのだが、何の準備もせずに合宿に入ってしまった。
無責任であったと反省している。

大きな事故や病気がなくて大変よかつた。

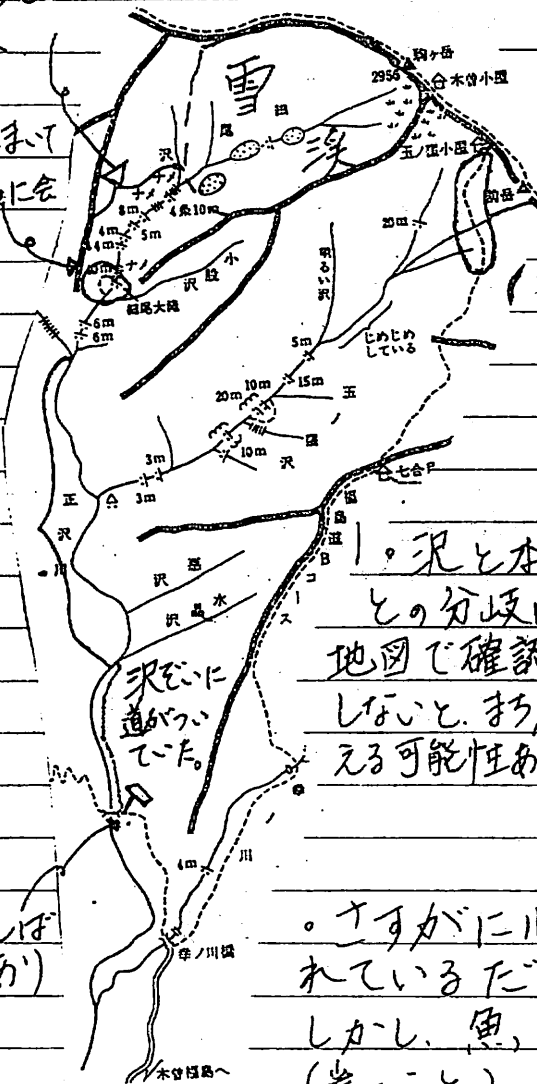
6/11 中下、正沢川、細尾沢朔行
原田(中)、山内、岸

水量多し。
絶景

左岸をまいて
えらくぬかえう。

け、
う、
タルイ。

かんぼ
んか)



迷いやすい(残雪時)

・沢と本谷
との分岐は、
地図で確認
しないと、まちが
える可能性あり

6/10 に幸、川橋
まで車で気合で
入る。

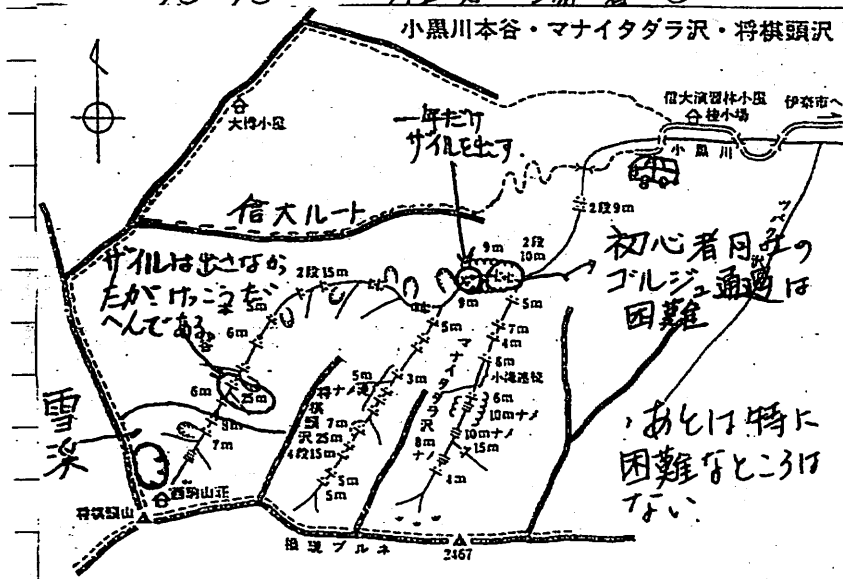
6/11 5:30 起
6:15 発①
9:00 本谷と
細尾沢、分岐
細尾大滝で
左岸をまいて。
えらく時間が
かかる

7:45 細尾大滝①
高巻き完了
14:00 朔行完了①
前在付近で道に
迷う。

7:800 幸、川橋①
・すがにルート集で「まき沢」と言わ
れているだけあって、名沢だった。
しかし、魚、影はなく、(釣り)キチ秀哉
(岸のこと)には、いさか物足り
な、たかもしれない。

(記：原田(中))

6/18 小黒川 溯行 (中3)
 L 原田 (中), 山内, 岸, 小林, 原田 (中)
 530 伊那発 } 車で移動
 615 桂小場着 }
 650 発 @ 30分で沢にとり付く。
 1300 西駒山荘 @
 将棋頭山をピストンした後 1400 発 @
 1545 桂小場着 @



6月の沢は
 寒がたけど
 なかなかお
 もしろい沢
 だった。初心
 者と共に行く
 にはよい沢で
 しょう。
 (記: 原田 (中))

But 核心は、ゴルジュでも、25m滝でもなく、帰りの、焼肉くい放題だった。

1995年6月23～25日

北ア穂高岳・屏風岩 登攀

メンバー： L山内哲文、松本穂高

行動：

23日 松本-上高地20:30 ●～横尾BC23:00 ●

24日 雨のため一時待機 BC9:40○～T4尾根取付10:40-11:10 ～T413:30 ○

[雲稜ルート登攀] ～終了点17:00 ～[懸垂下降] ～BC19:45 ○

25日 BC4:00○～東壁ルンゼ状スラブルート取付5:30-6:00 ～6P目にて事故10:45 ○

～[懸垂下降] ～取付17:20-17:40 ○～BC19:15 ●～横尾20:05 ～上高地

21:30 ●

ルート：雲稜ルートは人気ルートだから人がいっぱい。3P目のA1核心はボルトが多過ぎるほどで安心だけど、3ミリシュリングにアブミを掛けるとグイーンと伸びてちょっとこわい。ルンゼ状スラブルートはあんまり人気ルートじゃないから、残地ピトンも少なく苦勞する。しかもルンゼだからぬれてていまいち快適じゃない。事故については、別冊の事故報告書にて報告します。 (ほ)

6/23～6/25 (2+1) 北アルプス穂高岳 屏風岩東壁・雲稜ルート

(L) 博多 誠, 前原 徹

6/23 → 松本～上高地 14:40発○～横尾BC着 17:30○

6/24 → 3:00に起床し、雨だったので待機 ⇒ BC発 12:10○～1ルンゼ押出 12:30○
～T4取付 13:10○-14:30○～25m+15m+25m～15:15-16:00○
～けんすい下降でT4取付 16:30○～横尾谷 18:00○～BC 18:30○

●この日はT4等の偵察だけを行なうことにした。T4の取付で迷ったり、1ルンゼを下るとき、間違えて樹林の中に入りこんだりしたので、この日にメインの登はんを行なわなくて良かったと思う。意味のある偵察だった。

6/25 → BC発 4:10○～1ルンゼ押出 4:30○～T4取付 5:00-5:50発○
～50m+50m+コンテ+30m～T4 7:40-8:00発○～30m+20m+30m
～扇岩テラス 10:40-11:20○～A1ピッチを博多リード中に山内の事故の連絡が入る～A1ピッチ終了点からけんすい開始 12:10○～扇岩テラス 12:30
～大テラスまで25mクライムダウン～大テラス 13:00○～けんすい2P～T4着
14:00頃○～けんすい1P+クライムダウン+けんすい1P～T4取付 15:00-15:30○
～1ルンゼ押出 16:10○～博多、前原別行動～横尾山荘で合流 20:00○
-21:20○～上高地着 0:00●

●登はんよりも事故対策の印象の方が強く残っている。詳しくは事故報告書に記載されている。

反省と感想

- 自分にとって本ヤン岩場と本行リートは同時に初めてのことであり(合宿除く)、ザイル操作、準備などに時間がかかり、登はんスピード自体遅く、てしまった。手際の悪さは致命的であると思う。経験を積んで改善したい。

またこのルート自体、中途半ばに終わったので、もう一度挑戦してみたい。

(文責・前原)

< '95. 7月18-20日 東北白神山地 追良瀬川 >

1. 伊藤勇太郎、谷保麻美子(部外者)

18日 弘西林道、追良瀬大橋 6:10 - サクノ沢出合手前 12:00 - 五郎三郎沢出合より 20分

◎ ほぼ下流 T.S. 1 14:30

19日 T.S. 1 8:10 - 五郎三郎沢出合 8:30 - ホノ沢出合のゴルシ 11:00 - ウズラ石

① 出合より 10分ほど上流 T.S. 2 11:45

20日 T.S. 2 7:20 - S字ゴルシ 8:50 - 左股 - 右股 - 右股 - 沢終り、ヤブをぎ開始

●→◎

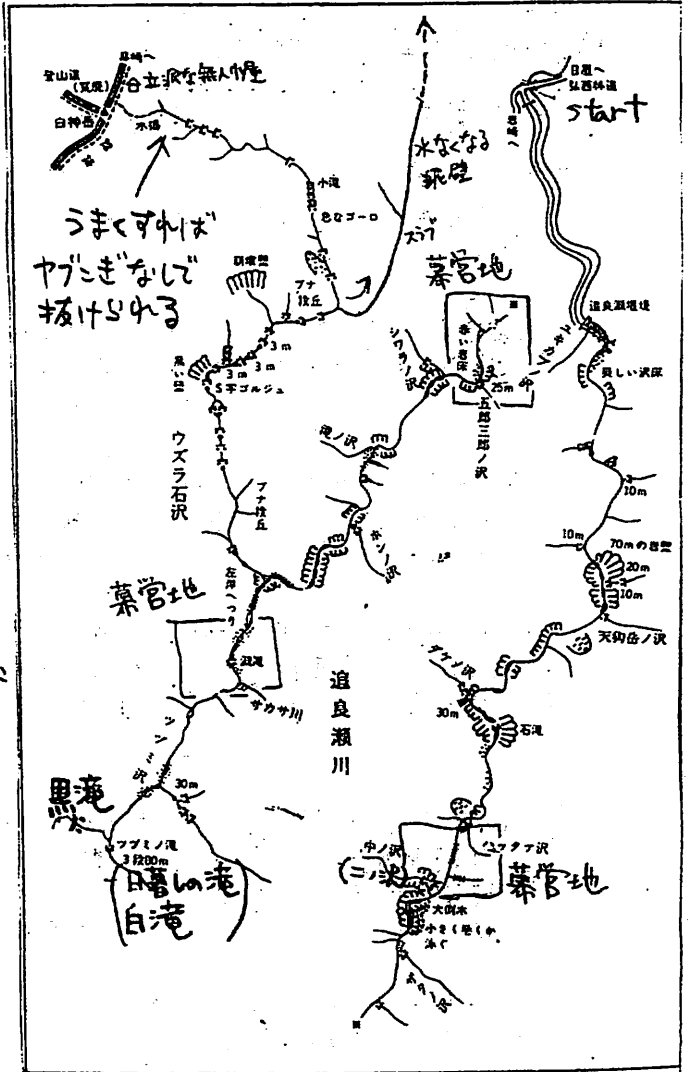
- 稜線 12:00 - 白神小屋 15:00 - 聖山経由 - 林道入口 18:20 - 黒崎駅

。予定では20日、ウズラ石沢出合の藁官地を1日おんりするはずだったが、天候が下りのおかげで20日中に抜けてしまった。稜線に出せばあとは踏跡でもあるだろう。夕方をくって地形図より稜線の最短の沢を詰める。しかし、ここが稜線に出る。このまの可憐い竹ガサの急登で、竹にしがみつきながら2歩登れば1歩滑りというように

して陸路へ戻る。そこからも前が見通せないほどの竹と変形したブナの長い長いヤブをきで雨の中かつき一寸前に小屋に出る。そこからは明瞭な登山道を下る。が、かた地圖に道がなければいくと短い距離でもヤブをきで苦しめられると予想し、遠回りでも沢をいか登山道に出るようにしたほうが無難。

沢はきれいでイワつたとき火して、ゆきもありで縦走では味ゆえない変化に富んだ楽しい沢登りだった。ヤブをきを解放されたときは、本当にホッとしたという感じで二人して声も出なかった。

サマ天にてOBさんが後日登ったと聞いたが、増水していて流れるようになってるといふので目に遠たらしい。



1995年7月23日 北ア・錫杖岳 登攀

メンバー： L松本穂高、博多誠（部外者）

行動： 槍見温泉4:35○～錫杖沢出合6:00～前衛フェース1ルンゼルート取付7:20-7:40○
～横断バンド（終了）11:20～東尾根經由錫杖岩舎14:30①～槍見温泉16:00①

ルート：初めの方はびしょびしょでぬれぬれ。水がしたたり落ちる中ですべりそうだったけど、特に難しいところはない。

感想：けっこういいペースで登れて、楽しかった。錫杖は日帰りができるから、行かない手はないと思う。

（ほ）

7月22日(土)～7月25日(火) [3+1日] 屋久島縦走

(L) 前原 徹, 上山 祐貴子

7/22 → 鹿見島港 ～ 宮ノ浦港 ～ 楠川バス停 → 14:05 発 ●_二 ～ 14:40 林道
終点 ●_二 ～ 16:10 三本杉 ●_二 ～ 16:25 林道 ●_二 ～ 17:05 弥生杉 ●_二
～ 18:40 白谷山荘 ●_二

白谷雲水峡内の遊歩道を使用して白谷山荘に向かため予想以上に時間がかかった。
急ぐ場合は雲水峡右岩の登山道を使った方が速い。

7/23 → 5:41 発 ●_二 ～ 6:07 辻峠 ●_二 ～ 6:15 辻の岩屋 ●_二 ～ 7:11 トロコ道
出合 ●_二 ～ 8:38 大楯歩道入口 ●_二 ～ 8:58 ウルソノ株 ●_二 ～ 10:11 夫婦杉 ●_二
～ 10:55 縄文杉 ●_二 ～ 11:20 高塚小屋 ●_二 ～ 12:40 新高塚小屋 ●_二

台風の接近のため朝から風雨が強かった。ただし樹林の中にいるので風の影響はほとん
ど無かった。辻の岩屋はビバーク可能だが雨が降ると流水路になってほうようだ。高塚小
屋は狭く暗いため、新高塚小屋まで行動した方が良い。

7/24 → 5:27 発 ●_二 ～ 6:10 坊主岩 ◎ ～ 7:00 平石 ◎ ～ 8:03 宮ノ浦岳 ●_二
8:23 発 ●_二 ～ 9:27 投石岩屋 ●_二 ～ 10:20 花之江河 ◎ · 10:45 発 ◎ ～
11:20 テーグロ-岩屋 ●_二 · 11:45 発 ●_二 ～ 13:20 フリ岩屋 ●_二 ～ 14:55 三
能山舎跡 ●_二 ～ 16:40 湯泊歩道入口 ◎ ～ 20:15 平内海中温泉 ○

天気が悪いので水田岳等のピークハントは全て中止した。投石岩屋は2～3人のビバーク
可能。テーグロ-岩屋は5～7人でもビバーク可能。ただし登山道から東側にヤブを分
けて行く。フリ岩屋は流水が存在し、しかも狭い。湯泊歩道はかなり魔道化が
進んでいるようで、特にテーグロ-岩屋～三能山舎跡は、赤テープや過去の道標を捨
いながらのヤブこぎになる。三能山舎跡から湯泊に下山する場合、七五岳の方へ登山道
を10分程度たどってから分岐があるので注意すべきである。

(感想) 屋久島は名前がよく知られるようになってから登山道の整備等が一段と進んだ
ようである。反面、人がよく通る淀川小屋～楠川間の道は、原生林の持つ本平の雰
囲気を失っているように思える。湯泊歩道はルートファインディングが少々大変だったが本
当に原生林らしく、とても気持ち良かった。こういう味のあるルートが次々と消滅
しつつあるのは残念である。またスコール性の雨が非常によく降るので、各沢
を溯行する人は天気の判断がかなり難しいと思われる。

< 95.7月23-26日 南八幡平、葛根田川 >

L. 伊藤勇太郎・中島佳範・谷保麻美子・阿部進一
 (部外者) (部外者) (部外者)

23日 滝ノ上キャンプ場 6:50 - およみ午前 9:00 - 葛根田大滝 10:15 - 滝ノ又沢出合 TS.1 11:30
 ◎ → ①

24日 TS.1 10:00 - 20MA 滝手前 11:15 - 綾線へ出る。終了点おやぶにきほんどなし。 12:30
 ◎ - ハツ瀬森山荘 12:40

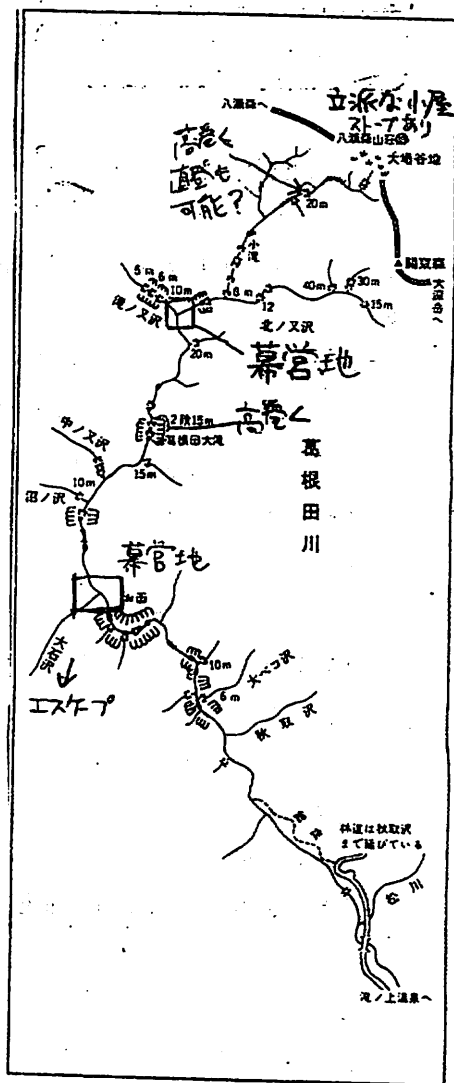
25日 山荘 8:00 - 曲崎山山頂 9:15 - 大白森山荘 10:30 - 大白森湿原 12:00
 ● - 小白森湿原 13:00 - 田代岳山荘 15:45

26日 山荘 6:00 - 乳頭山山荘 7:00 - 白沼 8:10 - 滝ノ上キャンプ場 9:00

沢登り未経験者3人の山行だったが、ほとんど問題なかったと思う。高差も少し注意すれば沢登り自体は腰かよ上はぬれずに登れるぐらい。非常に人気の沢らしく、この時も北大のW.V.と一緒だった。

ハツ瀬森山荘、田代岳山荘は2階建てのきれいな小屋で築2~3年であるが既に、ストーブ、石油orまき、ふとんと完備され、トイレも2階にあるというすばらしさ。田代岳山荘は水場がないのだが、目の前に池があるため、こまめに池の水を使えばいいと思う。

ハツ瀬森からの綾線歩きは展望もなく、湿原も小規模なものでいまひとつだった。



1995年8月6日

サマテン山行 ひょうたん池

メンバー：松本穂高

行動：サマテン8:37①～明神9:07-9:27 ～ひょうたん池11:30-13:00 ①～明神14:20 ～

サマテン15:00 ①

ルート：明神の「山のひだや」でルートについて聞いたので迷わなかったが、聞かないとけっこう分かりづらい。沢筋を登っていき、右に崩壊地が見えたら右折する。ひょうたん池下のガレ場は、直上しないで右上していく。

感想：ほとんど人がいなくて、きれいなお花畑があって、とてもいいところ。ひょうたん池は本当にひょうたんの形をしていておもしろい。

1995年8月7～9日

北ア穂高岳・滝谷 登攀

メンバー：L松本穂高、博多誠（部外者）

行動：

7日 サマテン6:30①～横尾9:00～溜沢12:15-12:40 ～北穂南稜テラス15:00 ①

8日 BC5:00○～第四尾根取付（スノーコル下のコル）7:00-7:30 ～〔第四尾根→ツルム正面壁登攀〕～ツルムの頭15:00 ●～登攀終了16:30 ●～BC18:10 ○

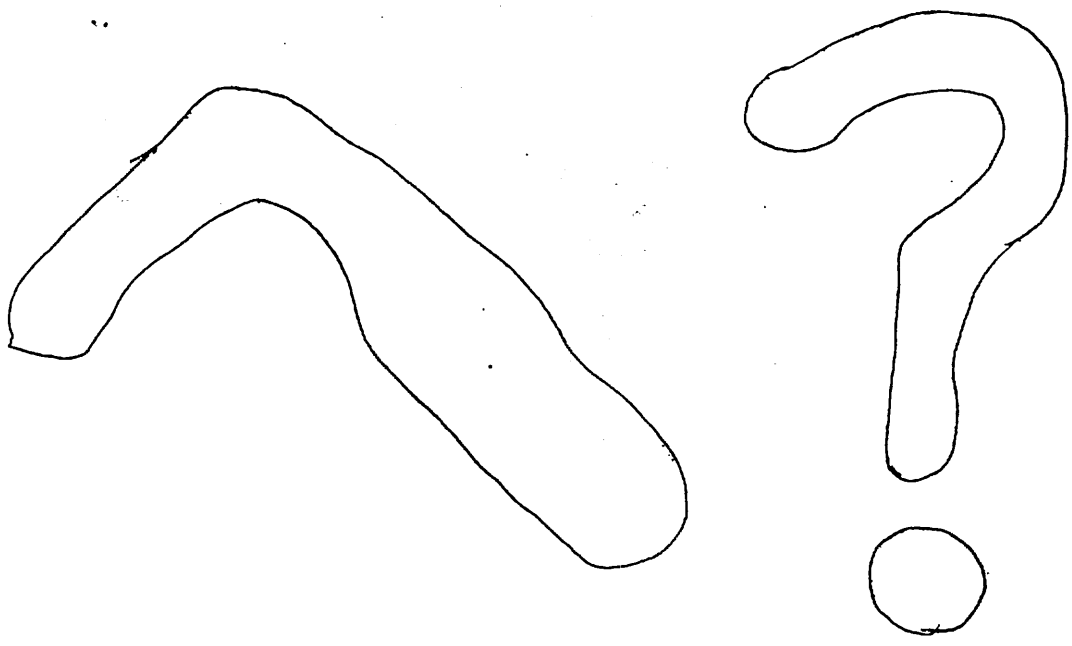
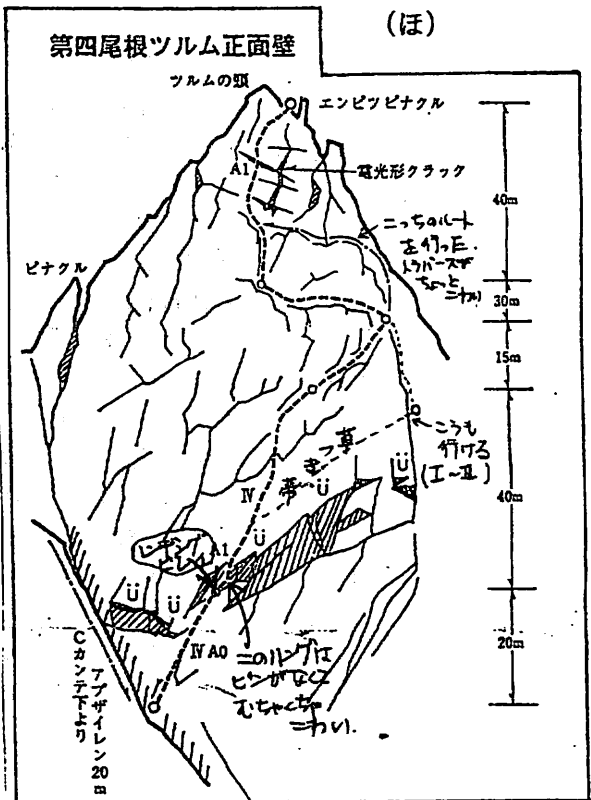
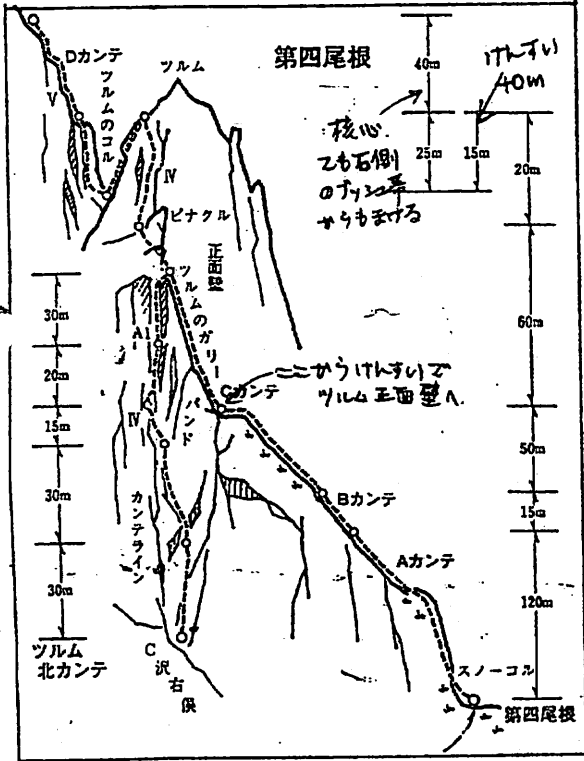
9日 悪天のため下山 BC6:00●～溜沢7:10-7:30 ①～横尾9:00～サマテン11:50 ①

ルート：

アプローチのC沢左俣は、まさに地獄だ。急なといみたいで、その底には岩が乱雑に積み重なって微妙なバランスを保っている。足を踏み入れればそのバランスが崩れて、岩なだれを起こす。巻き込まれたらおしまいだ。とっさに、横の基盤岩にへばりつく。ぼくらのひとつ後ろのパーティーは、ドームに向かうずっと上にいるパーティーからの巨大落石に、インベーターゲームのように逃げ惑っていた。アプローチはとにかく早い時刻に短時間で抜けなくてははいけない。第四尾根自体も浮石のルートで、とにかく慎重な行動が必要だ。ツルム正面壁は2P目が核心で、ちょうこわい。詳しくは下の図を。

感想：

とにかく浮石がこわくて、時間がかかってしまった。なのにビレイもせずに登っているパーティーがいるのには驚いた。自殺行為だ。信州側は快晴なのに、飛騨側は終日ガスで、それも登攀中の不安感を増した。滝谷は初心者を連れて行くのはどうかと思う。



北アルプス縦走 L長澤徹哉、磯部和哉、堀崇行

8月4日 Box発 6:06 (松本駅 6:37) 一三股 8:05 一前常念岳
13:40/14:24 一常念乗越 15:21/15:30 一常念岳
16:36/17:55 一常念小屋 18:15 (Tent Sight1)、
天候は常時快晴

常念で昼寝、降りてからヤミ天。

8月5日 T.S1発 7:00 (起床 5:00) 一東天井岳 8:42 一大大天荘
10:10/11:10 〇〇 大大天井岳 10:23 一西岳 14:26 一
水俣乗越 17:03 一ヒュッテ大槍 19:20/19:40 一
殺生ヒュッテ 19:50 (T.S2) 〇

2日目にしてヘッドラ行動となった。この先どうなるの、
だろう、楽しみだ。

8月6日 T.S2発 7:16 (起床 5:00) 一槍岳山荘 7:53/8:55 〇〇
槍が岳 8:20 〇 一 千丈沢乗越 9:56 〇 一 縦沢岳 12:34 一
双六小屋 13:09/13:50 〇 一 双六岳 14:55/15:20 〇 一
三俣蓮華岳 17:10 一 三俣山荘 17:50 〇 (T.S3)

朝の暴風雨にはまいった。双六小屋のオヤジに注意。

8月7日 T.S3発 7:36 (起床 5:00) 一鷺羽岳 8:27 一
水晶小屋 9:54/11:22 〇〇 水晶岳 10:42 一
東沢乗越 12:16 一 真砂岳分岐 13:27 一 真砂岳
13:47 一 野口五郎岳 14:51 一 野口五郎小屋
15:33 〇 (T.S4)

今日はまともに天気図が取れる。

前原・茂幹組理める

8月8日 T.S4発 5:30 一 三ッ岳 6:35 一 烏帽子小屋 7:20 〇
一分岐 8:00/8:55 〇〇 烏帽子岳 8:21 一 不動岳
11:35 〇 一 船窪岳 14:30 一 T.S5 (船窪小屋の北) 〇
17:40 長澤は忘れ物を取りに引き返し、18:30 着
記録帳を忘れ、2度船窪を味わえた。走った。

8月9日 T.S5発 6:43 一 七倉岳 6:55 一 北葛岳 8:21 一
蓮華岳 10:34 一 針ノ木小屋 11:34 一 針ノ木岳 12:46 〇
一 スバリ岳 13:50 一 赤沢岳 15:47 一 鳴沢岳 17:15 〇
一 新越乗越 18:00 一 岩小屋沢岳 18:40 一 種池山荘
T.S6 19:55 〇

「蓮華の大下り」をひたすら登る。

8月10日 T.S6発 5:37 一 爺が岳 6:23 一 冷乗越 7:15 〇 強風一
冷池山荘 7:40/山荘で休憩 9:40 〇 一 布引岳 10:13 〇 一
鹿島槍南峰でツェルトを張り待機 10:54 〇 強風一

鹿島槍南峰 13:39 ● 相変わらず強風一南北峰間にT.S7
(ビバーク) 14:00

冷池山荘に注意、女の子だけで運営しているようだ。
だが、その後の我が隊は悲惨な目に遭う。

8月11日 4:00起床 ● 7:00から朝食 ● 7:34 待機を決定
11:00 ●、沈澱を決定 12:50 雨は小降りになるものの霧
のため視界悪し。時たま登ってくる3、4組の人あり、
「すごーい。こんなところにテントはってるわ。」との声。
「風雨の中のぼってくるあんたらの方がすごいわ。」と
思った。

8月12日 4:30起床 T.S7発 5:48 ○ 一鹿島槍北峰 6:00 ○ 一
八ヶ峰キレット小屋 6:58 ○ 一北尾根の頭 8:21 ○ 一
五竜岳 10:02 ● 一五竜山荘 11:04 ● 一唐松山荘 13:48 ●
一唐松岳 14:28 ● 一不帰キレット 15:58 ● 一天狗の頭
18:20 ○ 一天狗平(T.S8) ○ 18:40
不帰キレットにて長澤足を滑らす、危うく不帰の人と
なるところだった。

8月13日 T.S8発 5:26 ○ 一鎌・白馬の分岐 6:05 ○ 一鎌が岳 6:07 ○
一杓子のふもと 6:50 ○ 杓子岳 7:01 ○ 一丸山(2768m)
8:02 ○ 一白馬岳 8:46 ○ 風が強かった。一雪倉岳避難小屋
10:50 ○ 一雪倉岳 11:37 ● 一水平道分岐 13:35 ○ 一
朝日岳 14:46/15:55 ○ 一吹上げのコル 16:10 ○ 一長梅山
16:44 ● 一黒岩平 18:15 ○ (T.S9)
今日も長かった、そういえば10時間をこえる行動が多い
ような気がする。でも2人はよく
ついてきてくれてるなあ。

8月14日 T.S9発 6:00 ○ 一黒岩岳 6:31 ○ 一文子ノ池 6:54 ○ 一
サワガニ山 7:46 ○ 一犬が岳 8:57 ○ 一白鳥小屋 12:42 ○
一坂田峠 14:29 ○ 一二本松 15:50 ○ 一入道山 16:05 ○
一親不知 17:00 ○ =松本 (大糸線不通のため直江津経由)
着いた。とにかく着いた。束の間の休息を満喫しよう。
海で遊べなかったのは残念だった。

反省点：調理具を持たなかったこと(しゃもじ、お玉)。

教訓点：空身の時に1リットルくらいのボトルがあると便利。

感想点：自分ではもっと景観を楽しむ山行としたかったが、思うよ
うに果たせなかった。でも、相棒たち共々よくやったなあと思う。

夏期縦走合宿感想

磯部和哉 94M0007E

常念岳から日本海 親不知までの北アルプス縦走は、果てしない山歩きであるかのごとく考えていた。毎日大変だったが自然状況や景色の目まぐるしい変化は、とても楽しかった。この山行で信州大学のホームグラウンドとでも言うべき北アルプスの山様が実感できるようになったことがとてもうれしい。天狗平の夕暮れや、梅海新道での風景は、一生忘れられないと思う。来年また日本海を目指したい。

縦走合宿の感想

堀 崇行

長い登りで気がくさいそうになった時もあったが、たいへんすばらしい山行だった。この長い間ずっと変わらなかつた写真をとる時のイソグキ人ホースとサカサワさんのシブイ顔を思い出す。
来年はどこに行こうかなやむ♡

南アルプス縦走報告 8/4 ~ 8/10

メンバー L 岸秀蔵 (2年), 花谷泰広, 原田亮介 (1年)

8/4 5:30 部室 - 6:10 松本駅 12:00 平岡駅 13:15 易老渡 ~ 16:00 面平

朝早く出発したにもかかわらず電車の接続が悪く登山道入口に着いたのが13:15。次の日の登りを少しでも減らすため、登り始めたのが13:30。2年の僕はなぜか荷物が45kgを超えておりバテてしまい面平までの600m UPに3時間近くかかっていた。面平には水場がないため、水14Lを上げた。天場はリッチだった。

8/5 4:15 T.S ~ 7:50 易老岳 8:25 発 ~ 10:40 光岳 11:15 発 ~ 13:00 易老岳
~ 17:15 茶臼岳 ~ 17:45 茶臼小屋

易老岳までの登りはけっこう長く、きのう少しでも高皮をかきいでおいて正解だった。2日目から下山ハikerを發揮して、茶臼小屋まで行く事にした。光岳をピストンして易老岳に戻った時、亮介は半分死にかけていたが、時間的には茶臼小屋まで行けたので、出発した。明るい内に茶臼小屋に着けた。

8/6 6:40 T.S ~ 8:20 上河内岳 ~ 10:23 聖平小屋 T.S

昨日の疲れが残っていたので今日はちと早いが聖平でテントを張った。特に問題なし。いや、差し入れのスイカが……。

8/7 4:30 T.S ~ 6:48 聖岳 7:05 発 ~ 8:53 うさぎ岳 ~ 10:53 大沢岳
~ 11:15 百間洞野営場 ~ 15:50 赤石岳避難小屋 T.S

今日も下山ハikerを發揮して、赤石避難小屋まで行った。聖岳はわりと早く登れた。百間洞までは3人ともサクサク歩いたのだが、百間洞 ~ 赤石岳の間で亮介がバテていた。避難小屋はしかりしており、20人ぐらいは泊まれる。水はないのでホッカイロを上げた。

8/8 4:30 T.S ~ 4:35 赤石岳山頂 ~ 5:05 小赤石岳 ~ 6:15 荒川小屋
~ 7:50 中岳コル 8:20 発 ~ 9:20 悪沢岳 9:45 発 ~ 10:30 中岳コル
11:20 発 ~ 13:00 高山裏避難小屋 T.S

今日は非常に天気が良く、富士山も見えることができた。小赤石岳の手前で日の出を拝み、とことん荒川小屋を通過して高山裏の小屋まで行った。荒川岳の西面の大崩壊地帯は、とアナイ所だった。高山裏の水場は、けっこう速かった。

8/9 5:00 T.S ~ 7:50 小河内岳 ~ 8:55 烏帽子岳 ~ 9:30 三伏峠
 10:00 発 ~ 12:50 塩見小屋 13:10 発 ~ 13:53 塩見岳東峰 14:45 発
 ~ 15:50 雪投沢キャンプ場 T.S

歩きながら、次のキャンプサイトをどこにしようか考えていた。結局、時間的に余裕があり、天候も安定しており、雪投沢のキャンプ場まで行くことができた。三伏峠から先で花谷が足の調子を悪くしていたので、心配だったが2年の僕がダブルバックをしてなんとか着いた。雪投沢の水場も上と遠い人がいなくて静かな所だ。

8/10 4:40 T.S ~ 7:50 熊の平小屋 8:10 発 ~ 9:30 三峰岳 ~
 10:15 間ノ岳 10:35 発 ~ 11:35 北岳山荘 11:55 発 ~ 12:50
 北岳山頂 13:00 発 ~ 14:30 白根御池小屋 ~ 15:45 広河原 T.S

今日は天気が悪かったのでひたすら黙々と歩き続けた。立ち止まると非常に寒い風が吹いてきた。歩きながら、時間と天候と体力と下山ルートを考慮に入れた所、今日中に下山してしまうのが最も良いと思えた。途中、急に雨が降り出したので雨具を着ずに歩いていたら、下半身がぬれてしまった。すぐに雨具を着るべきだった。風が非常に強かったので、縄線の上にテントを張るのは非常に困難だったと思う。しかし、バスがあったので広河原にテントを張り、次の日の始発のバスで帰った。

感想 L-岸。2年生として1年生を引張っていくという事ができて良かった。初日から日程も短縮することはかなり考えていて、結局5日も縮めてしまった。1年生にとっては山をあまり味あえなくて残念だったろうけど、僕としては早く下山できて良かった。

花谷。山岳会に入ってから初めて縦走合宿に参加したが、予想以上にキツかった。でも、ほとんど毎日快晴の下で南アを歩けたという事はとてもいい思い出になった。

原田(健)。エッセンは、パニカンが腐ってしまうという事態を招き失敗だったが、日程が短くなったので良かった。長い山行では食料にはもっと気を使うべきだった。

8月2日(水)～8月20日(日) [15+4日] 北アルプス縦走 No.1

(L) 前原 徹 , 小林 茂幹

8/2 → 松本 = 猿倉・猿倉荘発 7:31◎ ～ 8:22 白馬尻荘◎ ～ 11:32
頂上宿舎◎

白馬大雪渓上に多量の土砂が流れ出ており、また、ルパスが増えたため、登山道の様子が変わっているという話を聞いた。しかし、巻き道や梯子などしっかりとしたものがあったので特に問題は無かった。この日、白馬岳山頂に行く予定だったが悪天のため中止した。

8/3 → 荒天のため一時待期 10:10 T.S発◎ ～ 10:27 白馬岳山頂◎ :31発 ～
10:50 T.S ◎・テント撤収 11:12発◎ ～ 12:22 杓子岳◎ :35発 ～ 13:34
白馬鐘ヶ岳◎ :50発 ～ 14:22 天狗平 T.S ◎

一日中晴れることがなく風が強かった。特に危険な箇所が無かったので行動したが、未だ荷物も重かったので厳しかったと思う。強風下の行動もよい経験ではないだろうか。

8/4 → 4:50 T.S発◎ ～ 5:10 天狗ノ頭◎ ～ 6:30 不帰キレット◎ ～ 8:41 唐松
岳山頂◎ 9:00発 ～ 10:50 白岳頂上への分岐◎ :00発 ～ 11:15 白岳◎ ～
11:46 分岐◎ ～ 11:50 五竜小屋◎

この日も強風で、不帰ノ嶮などの危険箇所は特に慎重さが必要であった。唐松小屋のテント場は、7月の豪雨で崩壊の危険に遭ったため使用禁止になっていた。

8/5 → 4:53 T.S発◎ ～ 5:35 五竜岳◎ :55発 ～ 7:20 北尾根ノ頭◎ ～ 8:33
キレット小屋◎ :43発 ～ 10:09 北峰への分岐◎・北峰まで5分・10:33 分岐発◎
～ 10:55 鹿島槍ヶ岳南峰◎ 11:23発 ～ 12:44 冷乗越◎ ～ 13:37 爺ヶ岳
中央峰直下◎・中央峰まで3分・～ 14:05 爺ヶ岳南峰◎ :22発 ～ 14:45 穂地山荘◎
15:10発 ～ 15:26 樺小屋乗越 T.S ◎

鹿島槍の山頂でガスに包まれ何も見えなかったのは残念である。ピーク上で晴れたのは今山行中爺ヶ岳が初めてだった。樺小屋乗越には雪田があり、その水を利用し、その奥に古いテント場があった。6人用テントでも5張以上のスペースがあった。

8/6 → 4:30 T.S 発◎ ~ 5:23 岩小屋沢岳◎ : 33 発 ~ 6:53 鳴沢岳◎ ~
7:45 赤沢岳◎ 8:05 発 ~ 9:35 スバリ岳◎ : 45 発 ~ 10:15 針ノ木岳◎
11:25 発 ~ 11:45 針ノ木峠◎

快適な1日だった。針ノ木峠では、雪溪の水を利用しなければならぬので、少々扇沢の方へ下る必要がある。食器やコンフェルを持って行くと水が汲みやすい。

8/7 → 4:23 T.S 発◎ ~ 5:05 蓮華岳山頂◎ : 25 発 ~ 7:02 北葛岳◎ : 12 発 ~
8:22 七倉岳◎ ~ 8:32 船窪小屋◎ ~ 8:42 テント場◎・水場は南に下る
往復 20分前後かかり、ザレていて危険。9:14 発◎ ~ 9:34 船窪乗越◎ ~
11:07 船窪岳(2459mヒ=7)◎ : 25 発 ~ 13:40 2400m 付近の樹林の中 T.S ◎

船窪付近は、ザレてすべりやすく、不動沢側に深くキレており危険。岩がもろく、鎖が
少ない分、不帰嶮等よりも危険度が高いのではと思った。またこの日は暑く、登り下りのはげ
しいルートだったので疲れがひどく、樹林のわずかなスペース上にテントを張って明日に備えた
方が良いと判断した。水は4.2L 持っており、翌日、次の水場までの行程を考慮しても十分だと
考えテントを決定した。

8/8 → 4:46 T.S 発◎ ~ 5:18 不動岳◎ : 23 発 ~ 6:45 南沢岳◎ ~ 7:24 烏帽子
岳への分岐◎ : 35 発・烏帽子岳山頂まで10分 : 59 発◎ ~ 途中、長澤隊と会う ~
8:19 分岐着◎ ~ 8:32 ニセ烏帽子岳◎ ~ 11:07 野口五郎小屋◎ : 33 発 ~ 11:48
野口五郎岳山頂◎ ~ 13:59 水晶小屋◎ 14:10 発 ~ 14:29 水晶岳◎ : 36 発 ~
14:58 小屋着◎ : 15:02 発 ~ 15:22 鷲羽岳への分岐◎ : 35 発 ~ 16:00 鷲羽岳◎
: 24 発 ~ 16:48 分岐着◎ 17:05 発 ~ 17:39 祖父岳◎ 18:15 発 ~ 18:40 聖平 T.S ◎

特に危険箇所等無かったが、行程は長かったと思う。祖父岳上での快晴は本当に気持ち
良く、青い空と、黒いケレンと、長い影が印象的だった。夕方の山もまた良いと思った。

8/9 → 5:24 T.S 発◎ ~ 5:29 スイス庭園◎ ~ 5:57 聖一平山荘◎ 6:04 発 ~
6:22 ギリニア庭園◎ ~ 8:02 兼師沢◎ : 15 発 ~ 10:37 太郎平小屋◎ : 47 発
~ 10:58 兼師峠◎ 11:15 発 ~ 12:25 兼師岳山頂◎ : 50 発 ~ 13:45 峠着◎
14:25 発◎ ~ 14:45 小屋◎・おやつと夜飯を食べ天候も悪く 16:45 発
~ 18:08 北ノ保岳◎ : 15 発 ~ 18:50 赤水岳直下 T.S ◎

少しでも行程を結めたかたので、太郎平小屋で食事等を全て済ませ、明日の朝食と行程
に必要なだけの水を持って前進した。この登山道は昨年歩いたことがあるので、多少
暗くなっても安心感があり、二人用のテントはわずかなスペースがあれば設営できると考え
テント T.S を決定した。

8/10 → 4:22 T.S発◎ ~ 5:02 中俣乗越◎ ~ 6:10 黒部五郎の肩◎ : 26発 ~
6:35 黒部五郎岳山頂◎ ~ 6:49 肩◎ ~ 7:58 黒部五郎小舎◎ 8:35 発 ~
10:05 三俣蓮華岳◎ ~ 11:27 双六小屋◎

天気が時間と共に悪くなったので、前日に少しでも行程を結めたのは実に正解だった。後編上は非常に風が強かったため双六岳には行かず、三俣蓮華岳直下から巻き道を使った。

8/11 → 4:33 T.S発◎ ~ 5:20 弓折岳鞍部◎。ここに荷物を下ろして、79%の装備にする。
: 37 発◎ ~ 7:24 壱新道への分岐◎ ~ 8:11 壱ヶ岳山荘◎ : 14 発 ~ 8:23 壱ヶ岳山頂◎ : 34 発 ~ 8:43 山荘着◎ : 52 発 ~ 10:52 ティポ地点◎ 11:30 発 ~ 鏡平 11:56 ◎ ~ 14:02 左俣林道との合流地点◎ : 15 発 ~ 15:20 新穂高温泉着◎

双六小屋で壱新道が崩壊していることを知り、小池新道を使うことにした。壱新道は来年以降の復旧になるようだ。大1マ乗越からシンウダが原への道は廃道では無かった。天気が本当に悪く不快な1日だったが、温泉がそんな長分を晴らしてくれた。バスターミナル前の無料の公共浴場は17:00まで入浴ができる。

8/12 → 4:34 T.S発◎ ~ 5:20 穂高平◎ ~ 6:03 白出小屋◎ ~ 8:11 荷継小屋跡◎ ~ 10:35 白出のCOL着◎ : 45 発 ~ 11:14 奥穂高岳山頂◎ : 55 発◎ ~ 12:14 COL◎ : 40 発 ~ 12:54 涸沢岳◎ 13:07 発 ~ 15:20 南穂テラス◎

重太郎橋より下の1900m付近で一ヶ所道が分かりにくい所があった。下りのときは問題無いが、登りの時は沢沿いのX印のある方へ行くこと。ここは2つに道が分かれており、上の方の道へ行くと、すぐに崩壊している所に出て通行不能である。重太郎橋から白出大滝の見える辺りまでは鎖場が連続する。荷継小屋の跡はただの石碑が残っているだけである。標高2600~2700mぐらいの所にまた雪渓が残っており(9月中旬には無かったらしい)、涸沢岳側の端を越えて行くのが良いようだった。また両側の岩が非常にもろいようで、常に落石には注意すべき道だ。実際、人間大の自然落石が起き、かろうじて直撃は逃れたものとてもよけられるものではなかった。落石の音だけでなく他の支沢からも聞こえていた。両側の岩壁直下を歩くときは特に慎重になってほしい。

8/13 → 4:17 T.S発◎ ~ 4:29 北穂高岳山頂◎ ~ 4:52 北穂高小屋発◎ ~ 6:53 南岳小屋◎ 7:15 発◎ ~ 7:26 南岳山頂◎ : 36 発 ~ 8:06 中岳直下の水場◎ : 21 発◎ ~ 8:37 中岳山頂◎ : 52 発 ~ 9:16 大喰岳◎ : 21 発 ~ 9:40 檜岳山荘◎ : 50 発 ~ 11:05 檜の穂先◎ : 25 発 ~ 11:53 肩着 12:15 発◎ ~ 12:42 ヒュッテ大檜◎ ~ 13:46 水俣乗越◎ ~ 14:40 西岳ヒュッテ◎

南岳を過ぎた頃から披靡に晴れて、とても気持ち良かった。本当に夏山らしい晴れの日だった。この日とその前日のルートには鎖場が多く、また登山者も多いので鎖場付近は非常に混雑する。人の少ない早朝や夕方に通過すると良いだろう。中岳直下には雪渓があり、水が溢れる。毎年のごとだが夏の檜ヶ岳には幻滅してしまう。

8/14 → 4:25 T.S 発○ ~ 4:34 西岳山頂 = 45 発○ ~ 6:17 大天井ヒュッテ○ = 30 発
 ~ 6:53 大天荘 ⊙ 7:15 発 ~ 7:20 大天井岳 ⊙ = 53 発 ~ 9:20 常念乗越 ⊙ = 47 発
 ~ 10:16 常念岳山頂 ⊙ 11:03 発○ ~ 12:50 蝶槍の分岐 (蝶ヶ岳側) ⊙ 13:04 発
 ・蝶槍まで3分 13:24 発 ~ 13:30 蝶ヶ岳山頂 ⊙ ~ 13:49 蝶ヶ岳ヒュッテ ⊙ = 54 発 ~
 14:54 大瀧山荘

東鎌根根で見た朝日と大瀧山荘のT.Sでの夕日はこの山行中でも特に美しく感じられた。やはり下山日の前日だからだろうか。大瀧山荘のT.Sは小ピーク上のひらけた場所であり、松本平の夜景が美しかった。

8/15 → 4:22 T.S 発○ ~ 4:27 大滝山山頂○ ~ 5:53 大滝槍見台○ 6:19 発 ~ 6:45
 明神見晴し○ = 56 発 ~ 7:26 徳本峠○ 8:16 発 ~ 9:39 岩魚留小屋○ = 49 発 ~
 10:56 二俣○ 11:22 発 ~ 鳥々の集落まで残り2kmぐりの場所で車に乗せてもらう
 ~ 13:38 新島ヶ駅○

下山の日も晴れて気分は最高、足取りとても軽かった。しかし、大瀧山荘 ~ 徳本峠間にはとにかく蚊が多い。一本取る度に30匹位の蚊に包まれ休んでいる身がしなかった。樹林のすきから見える穂高岳はまた他の方向から見ると違った味がある。最後に鳥ヶ谷で泳いで、また歩こうとしたときに車に乗せていただき本当に有難かった。悪天続きの今回の山行も最後になって Lucky だった。

反省と感想

今回の山行は計画段階での不満が大きかった。当初の計画では、奥大日山 ~ 剣岳 ~ 祖母谷 ~ 白馬岳の区間があり、より雄大な計画であったのが、7月初旬の豪雨のため登山道が寸断され計画を変更しなければならなくなった。そこで、雲ノ平 ~ 薬師岳 ~ 三俣連峰の区間を取って付けたのだがもの足りなかった。また、装備、食料など細かく計算して軽量化し35kg前後にまでしぼり込んだにも関わらず、移動力に目覚ましいものが無かったのは残念だった。自分自身にとってこの山行は正直言って辛くなかった。特に楽だった訳ではないが、やはり1年間山岳会の山行をこなしてきたのと自主トレの成果だと思う。

とりあえず、病気、負傷が無く、全行程を終えることが出来良かったと思う。

(前原)

この縦走合宿は、今まで自分が歩いたどの山行よりも長く苦しかった。中でも6日目の船漕では、いっそ不動沢へこぼれ落ちた方が楽では無いかと本気で考え、逃げ出したいくらい。一週間以上もある残りの行程を考えると、絶望的な気分になった。また、夜、シュラフの中で「朝がこなけやばいい」と思わなかったのは、下山前日だけだった。こんなにつらい山行だったが、晴れた日に見えた山々は美しかった。確かに美しかったが、その山にアエギながらこぼれ落ちることを思うと素直に喜べなかった。4日間中、心の底から気持ちよく歩いたのは、徳本峠から見える朝日に映える穂高連峰と背に、鳥ヶ谷へ向けて歩き出してからだった。

— 屋久島縦走 —

CL 原田(亮)、花谷、堺

・日程 9/5・6・7・8

・行動

5日 (晴れ) 楠川(13:40) ~ ①白谷山荘(18:10)

6日 (快晴) 白谷山荘(6:40) ~ 縄文杉(11:20→13:30) ~ ②新高塚小屋(15:13)

7日 (曇り) 新高塚小屋(5:30) ~ 宮之浦(7:40→8:20)

③淀川小屋(11:43)

8日 (曇り後晴) 淀川小屋(4:35) ~ 尾之間下山(11:15)

・感想

屋久島は雨が多い。まず雨に降られるだろうと覚悟を決めて入山したが、幸福にも好天にめぐまれた。屋久島は小屋が非常に整備されていてたいへん快適だがシーズ中には泊り客が多く入れないこともあるので重くてもテントは持って行くべき。

とにかく雨が多いと云うので登山が楽しくなるか否かは天候にかかっている。我々の勝因はてるてる坊主を連れていったことだと私は強く強く信じる。雨男は連れて行かないのが無難である。(1179)

1995年 9月8日 ~ 10日 秋山郷 魚野川本流

メンバー L 伴野達也 (OB) 岸秀蔵 (2年) 広谷智子 (部替) 下島康裕 (部替)
坂口俊也 (部替)

行動 8日 松本 - 野反湖 8:10 @ 8:45発 ~ 魚野川本流 12:00 @
~ 伊ノ下河原 T.S 14:40 @

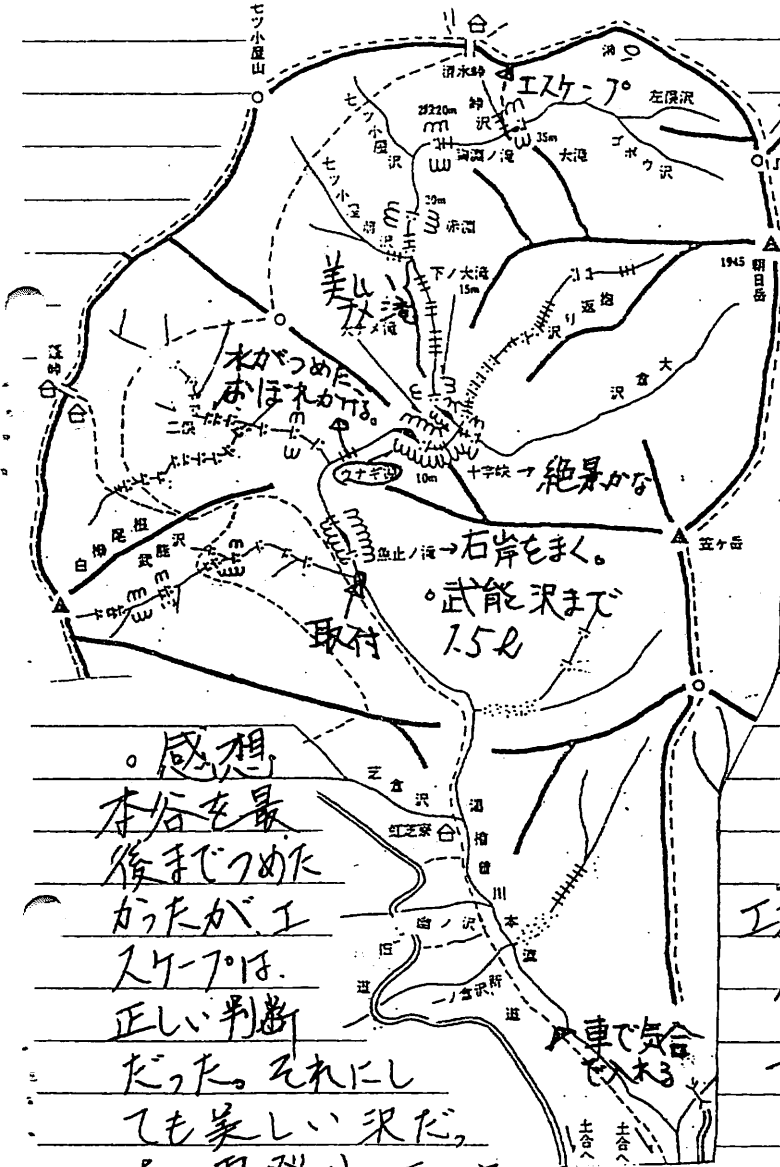
9日 T.S 7:00 @ ~ 黒沢出合 11:10 @ ~ 奥セン沢出合 T.S
13:45 @

10日 T.S 7:05 @ ~ 小セン沢出合 7:20 @ ~ 五三郎小屋 10:45 @
~ 大高山 12:20 @ ~ カモシカ平 13:55 @ ~ 三壁山 14:50 @
~ 野反湖 16:00 @

感想 人数が多かったが、沢の水量が少なかったため、人々に難かしくはなかった。

天候が悪化したのと、メンバーの中に足を痛めていた者がいたため、行動を短くして、結局エスケートルートを使う事になった。地域研究の不徹底のため、五三郎小屋から大高山まで道なき道を進む事になってしまった。釣りをしながら、3泊3日でつめるにはこの川はちょっと長すぎると思った。天場は序こうあった。なめ滝で一度ザイルを出した。

9/9 湯檜曾川本谷 (谷川岳)
2 原田(ゆ), 山内, 博多(部外者)



9/8 に松本より
1) 土合へ向かう(約5時)
土合駅でデパ
る。

9/9 4:30 起◎
1泊2日の行程
をさけて、日帰り
山行とする。

(9%に悪天が予
想されたため)

600 車発◎

730 武能沢

土合◎(取付)

745 伊出発◎

1200 峠沢土合◎

イスケ-70...

7305 清水峠付近

のピーク ①

下の道をつか
り。 (トリス道)

7650 車着◎

ポツポツ雨が降る。

2370 松本着

感想
本谷を最後
までつめた
かったがイ
スケ-70は
正しい判断
だった。それ
にしても美
しい沢だ。
た。沢登りの
エッセンスが
すべて盛りま
れている。
たとえばなら
走、攻、守三拍
子そろったイ
チローのよう
な沢です。セ
ム一度行っ
てみて下さい。
(記:原田ゆ)

1995年9月14～16日

北ア 槍・穂高岳縦走

メンバー：松本穂高

行動：

14日 新穂高温泉6:15●～鏡平10:47-11:00 ●～双六キャンプ場12:45 ●

15日 雨のため一時待機 TS8:50○～槍の肩12:05-12:15 ～北穂南稜テラス16:45 ○

16日 TS5:40●～白出のコル7:00-7:10 ●～新穂高温泉11:30 ●

感想：

台風の影響でどしゃ降り、いやになった。西穂に行けなかったのは残念だけど、冬合宿の私案の下見という目的は果たせたので、よかった。北穂での幕営の時は、テントごと飛ばされるかと不安で、ほとんど眠れなかった。

1995年9月22～23日

魚野川 渋沢 遡行

メンバー：L松本穂高、磯部和哉

行動：

22日 松本-野反湖6:10○～渋沢出合9:15-9:50 ～二俣13:40 ～広河原15:45 ○

23日 TS6:45○～奥の二俣7:20～白砂山11:55-12:20 ○～野反湖15:42 ○-松本

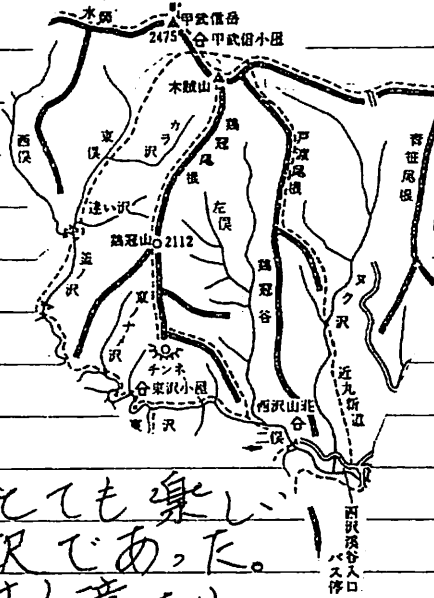
ルート：

平凡なゴウロが主体で、たまに滝が出てくる程度の初心者向けのルート。2段30m大滝は、左側をザイルを出して登った。奥の二俣の先の30m滝は、右岸のリッジから高巻き、笹のヤブをトラバース。RFは難しい。谷頭から稜線までと、白砂山の山頂までの稜線は笹のヤブ漕ぎ。白砂山からの道はとても整備されている。

感想：

とても奥深く静かで、好き。夜は清流の川辺で焚き火を囲んで、野イチゴをつまみながらカレーを食べる。道のあるところを歩く登山なんかもうやってらんねー と思った。

9/28 笛吹川、又ノ沢左俣溯行。
原田(ゆ)、小林、花谷



9/27 に山梨の小林の
実家宅にて泊。

9/28 400 小林宅①
515 西沢溪谷
バス停前 ①
ひとねおひして

630 起 650 発

730 又ノ沢橋(左)溯行
開始①

900 近丸新道と交わり所

1210 溯行完了

1300 甲武信岳①

1345 甲武信小屋

1400 カマ、沢下降①

1905 西沢溪谷バス停①

とても楽しい
沢であった。

ナメ滝あり

大滝あり

ヤブノキ多し

紅葉あり。沢の

下降あり。おまけ

にヘッドラ行動あ

りのドラマ性に富

んだ山行でした。

紅葉、沢もいいですね。

(記: 原田(ゆ)) :

中止になった山行

6/4 小黒川本谷
天候不順

6/10~6/11 (2+0) 南アルプス 仙丈岳 及び 甲斐駒ヶ岳

(L) 前原, 長澤, 磯部, 塚, 原田宛 以下は部外者 石田, 小島, 四宮

6月9日雨降りて、6月10日の天気も雨だと予報されていたので中止にした。実際にはこの日から天気は持ちなおしたが、各メンバーが移動するための時間と労力を考えた場合、前日の予報を参考にして中止にするのも妥当な判断ではないかと思う。

1995年 6月25日~26日 北岳バットレス

メンバー L 長谷川 哲也 (OB), 岸 秀蔵

行動 25日 伊那 - 広河原 12:50 ◎ ~ 白根御池小屋 T.S 15:40 ◎

26日 起床 4:00 ● 下山 5:30 ~ 広河原 7:00 ●

出発前から天気が悪くなる事はわかっていて、とりあえず白根御池小屋まで行こうというこゝで出発した。小屋に着いて少ししたら雨が降ってきた。小屋のおいさんがとても優しい人で、ただで小屋にとめてもらいその上ビールまで頂いた。次の日は天気の回復も望めず岩もぬれていりおたので、すぐに下山した。また来ただけ、だ。た。

6/10 赤岳沢
天候不順 (原田)

○ 北海道・増毛山、シヨカンベツ川

○ " 大雪山系、トムラウシ
クラウンナイ川

○ 東北、葛根田川
一身上の都合で
現地に向かわなかった

95. 8月12-13日 北アルプス 屏風岩東壁ルゼルト >

L. 伊藤勇太郎・中村貴士 (OB)

12日 上高地 カラテト 7:30 - 横尾ルゼルト 10:00 - T4尾根取付 11:00

① - T4 13:30 - T3 東稜ルゼルト取付 14:00 - 2時40分終了 下降開始 16:00 - T3 17:30
- T4尾根取付 18:30 - 横尾岩小屋付近 T.S. 19:30

13日 横尾 T.S. - 上高地

①
おぼんおさかりで 15:00-16:00? 以上お取り付いていた様の中。T4尾根も順番待ちで
時間をロスした。貴士さんは何年かぶりの岩登りだといふことで、リードする気が
起らないと言われ、無念にも下山。貴士さんが以前このルゼルトに登ったことがある
からと安心していたが、最低、岩登りのパートについては事前にギアを積み、お
たがいの状態も知っておくべきだった。

8/14 扇吹川・又ノ沢 左俣右沢
= 身上の都合 (原田)

95. 9月22-23日 北アルプス 屏風岩東壁ルゼルト・スノースタウンテン >

L. 伊藤勇太郎・中島佳範 (部外者)

22日 松本 4:00 - 中ノ湯 5:30 - 上高地 6:00 - 徳沢 7:30 ~ 11:00 - ルゼルト 出合 12:00

① - T4尾根取付 12:45 (ルゼルトの水が濁っていて、出合まで再び建設) - T4尾根取付 14:00

23日 台風が接近で回復の見込みなしと判断し下山。9:10 - 上高地 - 松本
弱

22日は2人とも寝ていなかったので 徳沢で寝ました。23.24日にそなえて
たっぴり寝たが 雨でずいぶん 110P。小雨の中 フリーフォールを登る気合が
入った 110P もあった。I'll be back!!

9/23

ハク岳、赤岳決

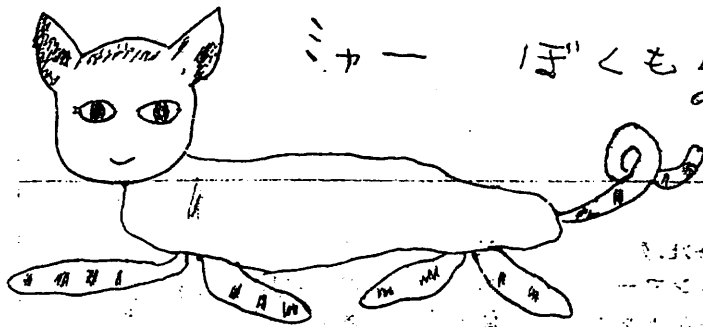
天候不順

(原田)

9/23 ~ 9/24 (2+0) 北アルプス 有明山 ~ 燕岳

(L) 前原

台風が接近しており山上では荒天が予想されたので中止した。実際、天気は悪かった。



ミカー

ぼくも山に

のぼりたいよおー

たもん



'95 信州大学山岳会
無雪期山行報告書

編集・印刷 / 松本